

日時：令和6年8月22日（木）
14：00～16：00（予定）
場所：横浜シンポジア

第5回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会

次 第

1 議 事

(1) 事務局の説明

- ・ 前回委員会後の市民意見等の説明
- ・ 前回の補足説明

(2) 地域関係団体委員の意見書の説明

(3) 学識者委員プレゼンテーション

(4) 第1回～第4回の意見のまとめの説明

(5) 意見交換

(6) その他

【配付資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿
- 資料2：前回委員会後の市民意見等
- 資料3：前回の補足説明
- 資料4：地域関係団体 意見書
- 資料5：第1回～第4回の意見のまとめ

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 委員名簿

地域関係団体委員

(五十音順・敬称略)

氏名	分野	現職等
さかくら とおる 坂倉 徹	経済団体	横浜商工会議所 副会頭
たかはし のぶまさ 高橋 伸昌	まちづくり団体	関内・関外地区活性化協議会 会長
たからだ ひろし 宝田 博士	商店街	協同組合元町エスエス会 理事長
たどめ やすし 田留 晏	物流業団体	神奈川倉庫協会 会長
ふじき こうた 藤木 幸太	港湾運送事業団体	横浜港運協会 会長
ふじき ゆきお 藤木 幸夫	横浜港振興推進団体	横浜港振興協会 会長

学識者委員

(五十音順・敬称略)

氏名	分野	現職等
いしわた たかし 石渡 卓	経営、教育	神奈川大学理事長
いまむら としお 今村 俊夫	都市開発	株式会社東急総合研究所取締役会長
うちだ ゆうこ 内田 裕子	イノベーション、経済、経営	経済ジャーナリスト、イノベディア代表
かわの まりこ 河野 真理子	国際法、海洋政策	早稲田大学法学学術院教授
きたやま こう 北山 恒	都市理論、建築デザイン	建築家、横浜国立大学名誉教授
くま けんご 隈 研吾	建築	建築家、東京大学特別教授・名誉教授
こうだ まさはる 幸田 雅治	住民自治	神奈川大学法学部教授
デービッド アトキンソン	観光	株式会社小西美術工藝社代表取締役社長
ひらお こうじ 平尾 光司	地域経済、イノベーション、ベンチャー	専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事
むらき みき 村木 美貴	都市計画、脱炭素型都市づくり	千葉大学大学院工学研究院教授
わくい しろう 涌井 史郎	造園、都市景観	東京都市大学特別教授

山下ふ頭再開発検討委員会後に インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

令和6年7月12日から令和6年8月19日まで

2 意見数

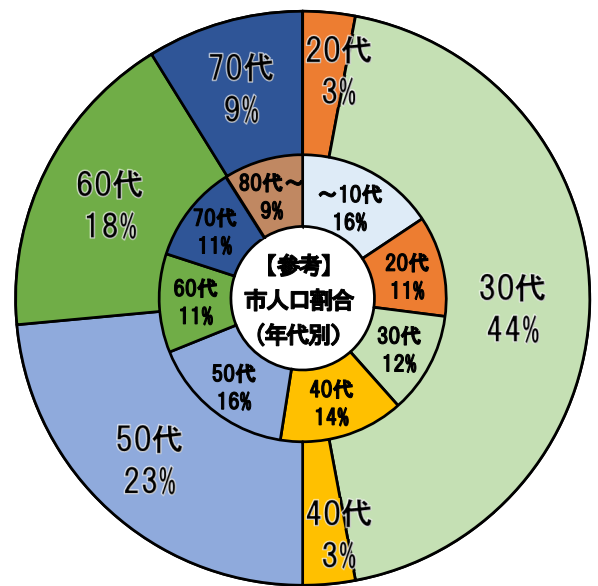
市民意見等は**33名から36件の御意見**をいただきました。

(内訳) 市内30名

市外3名 (30歳代2名、60歳代1名)

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、
投稿数から除外しています。

※「横浜市年代別人口 (グラフ内側)」は、
住民基本台帳による令和6年3月時点参照



投稿割合(年代別)

3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性に関する御意見

- ・アクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を計画に組み込む視点や大量輸送手段の確保が必要<30歳代、50歳代>
- ・この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき<30歳代>
- ・脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待<20歳代>
- ・駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い<30歳代>
- ・このような巨大プロジェクトは一市民の想像力では手に余るので、複数のブロックに区切って議論するとよい<30歳代>
- ・経済の話だけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要<70歳代>

など

(2) 導入機能に関する御意見

- ・横浜港の情景を大切にすべく、山下公園から連続する緑の多い空間<30歳代、50歳代>
- ・緑が多く、港としての機能として「海とのアクセス」を誰もが活用できるインフラ整備<30歳代>
- ・夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設<50歳代>
- ・海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館<30歳代>
- ・読書を推進するような場所作りとしてのハーバー図書館<40歳代>
- ・4～5万人収容の球技専用スタジアムと8千人収容のスポーツアリーナ<50歳代>

など

(3) その他の御感想等

- ・市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる<30歳代>
- ・時代の変化に合わせ、用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい<30歳代>
- ・平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる<30歳代>
- ・市民からのアイデアに基づき、委員が豊富な見識により補完し、深度化するような議論を期待<50歳代>
- ・実際の着工までの複数年間、山下ふ頭を放置しておくのはもったいないので、年単位の暫定利用を募集して、早期の活性化につなげることも必要<30歳代>
- ・建築の制限を受けそうな建築物の用途について市からファクトや見解が示されていると良い<30歳代>
- ・市民の意見を尊重し、話し合いの場を設けるため、市民参加型のワークショップをもっと開催してほしい<50歳代>
- ・現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき<60歳代>
- ・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい<30歳代>

など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

	居住地	年代	投稿（2000文字まで）
1	磯子区	50歳代	市民意見募集やワークショップで出た横浜市民からのアイデアに基づき、委員の豊富な見識による肉付け・深度化となるような議論をお願いしたい。時間はそう残されていません。
2	磯子区	50歳代	4～5万人収容の球技専用スタジアムと、8千人収容のスポーツアリーナ、氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園、夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設があれば、あとはなんでもいいです。
3	中区	50歳代	みなとみらい地区等の開発が進む中、古き良き横浜の雰囲気を感じられる再開発を進めて頂きたい。
4	市外	60歳代	山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
5	港北区	60歳代	（1）インターネットでの同時配信をしながら、視聴数が極めて少ないのには、はっきりとした理由がある。この会合が開かれることを市がともに広報していないからである。12日開催が記者発表されたのは、僅か1週間前の4日であり、それも市のホームページ上の記者発表サイトだけである。この広報の仕方、いったいどれほどの市民がこの開催を知るであろうか。せめてトップページに大きく掲出することを何故しないのだろうか。市民を置き去りにしないという言葉と実際の広報、告知のあり方との乖離が著しい。再度、改善を望む。（2）半年ぶりの委員会開催となったが、この6か月の間に何があったのか、委員長交代に絡んで寺島前委員長と市当局との間にどんな行き違いがあったのか、この事について、事務局から全く説明がない。一委員の辞任とは違い、委員長の交代があったことは特別な事である。報道によれば、「自分の依頼されていた役割を終えた。次の段階に進んでいる」と寺島氏は説明しているそうだが、第3回会合からの地域関係団体委員の参加によって、検討委員会が当初の目的とした再開発に向けての「方向性」と「付加価値」を付けるための議論の段階から、「利害調整の場」の段階に移ったということならば、この事態は市当局による専横と言ってもよい差配が齎した不手際であろう。第一回委員会では、北山委員と涌井委員が、地域関係団体委員の早期参加に慎重な意見を述べ、これに寺島委員長も、一案として、「ある段階でまとまった形でもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言ってもらってという機会を設ける」と応じた上で、「行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。」と結んでいた。こうした委員会側の意見を蔑ろにした結果の寺島氏辞任ということならば、市側の責任が問われよう。事務局がきちんとした説明をしないのは、市民に向き合う姿勢として誠実さを欠いているとの誹りは免れない。（3）事務局からの説明で、最初の市民意見についての報告は、相も変わらず、只の意見紹介に終わっていて、出された市民意見が検討委員会で議論の俎上に上がることはない。市民意見をどう扱うかについての取り決めがないので、市民側から見れば意見の言いっぱなし、市当局側から見れば意見の聞きっぱなしに終始する仕組みであり、市民参加とは言っても形式上であり、市民が合意形成に関わるような実質的参画とはなっていない。「市民による市民」検討が有名無実に終わらないような抜本的な改善を今後の運営に求めたい。
6	港北区	60歳代	（1）事務局からの説明でファクトシートとして提出された開発事例に、これまで全く触れられなかった2010（平成11）年3月提言の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価したい。読み上げられた5つの基本理念は、横浜に住む市民が主役の都市づくりの指針となるもので、今度の再開発検討に当たっても道標たる価値を聊かも失っていない。（2）高橋委員のプレゼンテーションは、詰まるところ、山下埠頭を「税金を生み出す場所」として「横浜経済の牽引役となる場所」にするように求めるものであった。今後の検討委員会の運営についても、「経済や経営を主幹とする経済学者」や「最前線でリーダーになっている経済人」、さらには「観光を管轄する」国、県、市の職員を委員会メンバーに入れるようにとの要望まで出している。市民の望むことをひたすら経済の発展に限定する所から導き出された意見であり、検討委員会が企図する大所高所からの提言書作りとはかけ離れた一面的な意見と言わざるを得ない。関内・関外地区活性化協議会の会長としての高橋委員の立場からは当たり前の要求なのかも知れないが、このような意見書を提出するのは地域関係団体委員によるエゴ丸出しの主張であり、寺島前委員長が危惧したように、検討委員会が「方向性」と「付加価値」を検討する役目を終えて「利害調整の場」と変容した証左と受け取られてもいたしかたあるまい。地域関係団体委員が今後もこのようなプレゼンテーションを繰り返すならば、委員長交代の問題も併せて、委員会の運営の仕方での市当局の顛倒是非は咎められなくてはいけない。（3）内田委員のプレゼンテーションは、ディズニーランドを範とするテーマパーク構想を語るもので、山下埠頭再開発と関連づける必然性を欠いている。上瀬谷開発で既に事業予定者となっている企業グループ向けにプレゼンテーションをされたら良からうと思う。内田委員の用いた生成AIが横浜の地理的、歴史的、文化的特性を十分に学習していなかったためであろうか、インバウンドの為に横浜の存在理由であるかのような、経済面に偏った皮相的な提案内容であった。第3回会議での北山委員の発言にあった「投資やインバウンドの為に」都市があるわけではなくて、都市には「人が住んでいる」、「住民のプライドのある魅力的な都市」ならば観光客はやってくる、この言葉を改めて噛みしめたい。

7	中区	30歳代	会議中に村木委員が発言していたように時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい以前各団体から提出された提案書ではいずれも1回作ったら終わりでの視点が抜けているものばかりだったと思う
8	中区	30歳代	内田委員の提案は大変楽しいもので興味深かったのですが、山下ふ頭は非常に広いので1テーマだけで使い切れるものではないと思いました。質だけでなく、需要や必要面積など量の視点から議論を深められるといいと思います。また、平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスを調整を考慮できると山下埠頭のより有効な活用につながると思いました。
9	中区	30歳代	藤木委員の今回の山下ふ頭活用事例のプレゼンはとても興味深かったです。広い空き地を利用したガンダムファクトリーの設置や岸壁を利用したしらせの接岸イベントなど、駅近でこのようなイベントができる巨大スペースは少なく、山下ふ頭固有の価値の1つであると思いました。再開発計画でも無理に使い切るのではなくあえて空きスペースを残してこういったイベントとのシナジーを創出する内容を盛り込めると良いと思いました。
10	中区	30歳代	坂倉委員の発言にあったように山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるように思いました。元町・中華街駅から中枢部まで若干距離がある上に山下公園駐車場が根本に鎮座していて視界を遮っているのが心理的な障壁を追加しているように思います。ベイサイドブルー・あかいくつの延伸は当然視野に入れていると思いますが、他にも例えば横浜合同庁舎の跡地を駅前広場にするなど、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要ではないでしょうか。参考事例として、同様に駅から距離のある大さん橋ホールは県民ホールや産貿ホールなどと比べると利用率があまり高くなさそうで、そもそも大さん橋自体が割と閑散としている気がします。
11	中区	30歳代	山下ふ頭は山下町内に所在しますが、地域関係団体委員として山下町自治会など住民代表がないのは良くない気がします
12	中区	30歳代	幸田委員から事業計画検討委員会を傍聴していない事業者は応募できないという提案がありました。しかし、大手事業者はアライバイ程度で温度感で数人の関係者を傍聴させるのは容易であるので簡単に形骸化してあまり意味がないと思います。実際に議論に参加させたり計画をプレゼンさせてレビューしたりといったことをさせてはいかがでしょうか。それによって委員会の進行とともに空気の読めない事業者や信用できない事業者は自然と脱落させることができると思います。
13	中区	30歳代	アトキンソン委員の意見にあったように市内で奪い合いにならないようにしなければならないというのはとても重要な視点だと思いました。以前の事業者による再開発提案でも横浜駅周辺・みなとみらい・新港地区と重複の大きい計画が多く提案されていましたが、それらは市内でのパイの奪い合いになると思います。山下ふ頭ならではの他エリアと差別化要素のある再開発計画を実施することが横浜市としての追加の価値につながると思います。
14	中区	30歳代	第4回検討委員会がほぼプレゼンだけで終わってしまったのは非常に残念に思います。プレゼンだけであれば最悪録画の事前共有でも可能なはずですが、高給取りの方を多数集めて時間を取っているからには対面での議論時間を十分確保していただきたく思いました。
15	都筑区	30歳代	山下ふ頭にはアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館、タマちゃんマリランドを設置してください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、環境保護の推進アピールや観光客を誘致するために水族館があるとよりよいと思います。横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、帷子川護岸等に住み着き、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにも横浜市に住んでいたタマちゃんの名を冠し、特別住民票を交付等横浜市とタマちゃんの結びつきを顕彰する水族館を作れば、他の施設との相乗効果により、山下ふ頭の発展により効果的です。山下ふ頭は横浜市発展の切り札になります。他市との差別化や脱炭素、海洋都市や自然環境保護、生き物との共生を図るため、かつて横浜市が特別住民票を交付したアザラシを活かした山下ふ頭開発、街づくりを行ってください。港湾と自然が親しむ都市になれると思います。
16	中区	30歳代	以前の事業者提案では色々夢のある提案がなされていたと思いますが、これまでの委員会では建築の内容の制限に関してファクトの説明がなかったように思います。山下ふ頭は横浜の湾内に直接突き出た埋立地であるため高潮・津波・液状化などの災害リスクがあります。また山下公園通り、港の見える丘公園の崖下など周辺地域一体には景観を遮らないよう高さ制限がかかっています。それらを踏まえて戸建て住宅地やタワマンのような超高層建築など制限を受けそうな用途について市から見解が示されていると良いと思います。

17	中区	30歳代	山下ふ頭のスケール感を理解されていない委員が散見されるように思いました。赤レンガ倉庫パーク一帯が5.5haやパシフィコ横浜・パシフィコ横浜ノースが7haに対し、山下ふ頭は47haもあり非常に広いです。思いつきの1テーマだけで使い切れるような広さではないと思います。このような巨大プロジェクトはやはり1小市民の想像力では手に余るので、7~10の仮のブロックを区切って利用したいブロックとともに議論してはどうでしょうか？例：ガンダムファクトリー(第5ブロック), 新コンベンションホール(第1,第3,第7ブロック) など
18	中区	30歳代	<p>答申が年末まで目標だそうですね。</p> <p>そうするとそこから大方針を決定して事業者提案のコンペをしてと考えると着工は最速でも3年後くらいになりそうだと思います。</p> <p>その間山下ふ頭を放置することになり非常にもったいないと思います。</p> <p>ガンダムファクトリーのような1から3年程度の暫定利用を募集して早期の活性化につなげるということも必要だと思います。</p> <p>意見募集や市民会議などでやってる雰囲気っを演出するだけでなく、山下ふ頭の有効活用には時間という要素も含まれることを肝に銘じて着実な前進を求めます。</p>
19	磯子区	60歳代	<p>デービット・アトキンソン氏を委員から外してください。彼は日大准教授による戦国時代の日本における黒人奴隷説という、当時の一次資料では何の裏付けもない歴史捏造に同調し、ましてや嘘である根拠を示せとSNSに投稿した。</p> <p>言論の自由はあれども根拠のない歴史捏造に加担するような人を委員に据えて良いのか。</p> <p>日本の横浜市としての姿勢が問われる。</p>
20	中区	40歳代	<p>日本で1番素敵でハーバー図書館を作ってください。僕は海外歴が長いのですが、どの街にも必ず中心地には中央図書館があり人の集まる場所になっています。大好きな横浜市民にはテレビやネットを見る時間を本を読む事を推進するような場所作りをしていただくとことを所望します。</p> <p>https://youtube.com/shorts/CdHq9gAjnDo?si=jh4A7TiR6vRyJ3Po 人は読んだ本の積み上げた高さから世界を見えるのだといいます。どうか横浜市民の為に、世界に誇れる素敵なハーバー図書館を盛り込んでくださることを期待します。</p>
21	港北区	60歳代	<p>幸田委員のプレゼンテーションは、専門の住民自治に関する高い見識に基づくもので、寺島前委員長が再三強調し、平尾新委員長も「市民による市民のための市民の再利用」との言葉で継承するところとなった「市民参画」の議論を前に進めるものとなった。幸田委員は、IR誘致の際の市民を置き去りにした進め方への反省の上にたち、「事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべき」と指摘した。この検討委員会からの答申が出された後に、「事業計画検討委員会」を新たに設置し、そこには市民の代表委員が過半数を占めるようにするとの画期的な提案も出された。これまで市民の意見を取り入れるための市民意見募集とは言うものの、市民はただ意見を言うだけで実質的合意形成の場には参加できていない。市が予定している今後のスケジュールでは、答申後に事業計画案を作成し、市民意見募集及び意見交換会を経て、事業計画の策定、事業者募集となっているが、これまでのやり方を踏襲する限り、市民参画は有名無実になる恐れが濃厚である。しかしながら、既に市民側では、学識経験者の向こうを張って、具体的な事業計画案も公表している市民団体も出てきている。この横浜の地に生きてきた、そして生きていこうとする市民は、今回の会議からでも参加して、横浜の地理、歴史、文化に根差した質の高いプレゼンテーションを行うことができる。地域的特性に関する学習が十分でない生成AIによるプレゼンテーションに勝るとも劣らない、文化の香り馥郁たる、血の通った、味わい深い企画が披露されるであろう。計画づくりや決定過程に、今こそ、市民に大きく門戸を開くべき時である。市当局の英断に期待したい。また、幸田委員が事務局に対して次回までの調査回答を要望していた、社会保障費と物件費の一般財源ベースでの負担割合に関するファクトの件は極めて重要である。なぜならば、よく言われていて、とかく税収を上げることは市民の目が行くように仕向けられている財政上の理由が本当かどうか、確かめる必要があるからである。今後、社会の高齢化に伴って社会保障費が増大するので、市民サービスを縮減しないのなら、税収を上げなくてはいけないし、税収を上げるには、インバウンドを主とした観光事業に狙いをつけて経済発展をするほかはない、との通説がまかり通っているきらいがあるが、この説明にはどこか胡散臭いものがある。幸田委員の要望通りに事務局がきちんとしたファクトシートを提示して、市の財政に関する正しい認識を持てるようにして欲しい。市税が市民の為に正しく使われているようになっているのか、確かな検証が必要である。</p>

22	中区	30歳代	<p>・IRも含めて、大規模商業施設をはじめとした所謂、「箱物」を核とした再開発にはしてほしくない。どんなに画期的なコンセプトで施設を建てたとしても、一見して見栄えはいいが、結局は他地域と似たようなデベロッパー等の事業者だけが利するような再開発になる。・山下埠頭周辺地区（山下公園、元町、中華街）はみなとみらい地区とは異なる都市としてブランドを既に持っており、そのブランドに引きつけられて週末に限らず多くの人々が余暇を過ごしている。・再開発にあたってはこの地区がなぜこのようなブランドを持つことができたのかといった変遷を正しく理解し、特に山下埠頭が辿った土地の履歴から他地域と比べた優位性を導きだした上で、再開発に取り組んでほしい。・個人的に考えるこの地区が持つブランドは港という土地として、多くの人種を受け入れた寛容性こそが最大のブランドだと思う（山手洋館、ホテルニューグランドといった西洋文化、そして中華街のアジア文化）・山下埠頭は港としての機能を有しているなのでその機能、すなわち「海へのアクセス」は損なわないでほしい。（船舶の利用、または海上施設の玄関口）そして何より横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい。・緑が多く、世界へ広がる海へ誰もがアクセスできる、インフラの整備されたオープンスペースとしての活用を望む。・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所で体感した経験を人々の人生の思い出にできるような場所にしてほしい。その些細かもしれない思い出が次の横浜への歴史になるはずだと確信します。・したがって横浜港の情景を大切にしてほしい。</p>
23	磯子区	50歳代	<p>7/12の委員会の映像を拝見して。坂倉委員からの交通アクセスに関するご意見について、大量輸送手段の確保は必須です。ロープウェイなどはそれを補完する手段にしかかなりえないからです。元町・中華街駅からMM線を延伸する構想を検討した過去があるのは初耳でしたが興味深いものでした。道路とともに、真剣に早く検討しなければならない事案です。涌井委員からの最後のご意見は、この再開発を検討するにあたっての重要な柱3点が詰め込まれていました。この意見はとても重要です。一番最初にご発言していただけると、もっと良かったかなと。あと、幸田委員からの事業計画案策定の体制と手続きについては理解できましたが、多様な意見をもつ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題だと思います。坂倉委員と涌井委員、幸田委員からのご意見を聞いただけでも良かったと思いましたが、これらを真剣に考えてほしいです。</p>
24	市外	30歳代	<p>検討委員会の委員の年齢層が高齢者に偏っている。検討委員会の委員の性別が男性に偏っている。将来について議論をするのだから、委員の過半数は若年層にすべきである。委員の半数は女性にすべきである。</p>
25	市外	30歳代	<p>山下ふ頭の開発と、横浜港の内港地区の有効活用を有機的に関連させるべきである。内港地区の有効活用のために、高さ制限があり邪魔なベイブリッジを廃止・解体すべきである。廃止・解体されるベイブリッジの代替道路として、山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路を建設すべきである。ベイブリッジの高さ制限がなくなることで、より多くの船舶を内港地区へ呼び込むことができ、横浜港の一体的活性化を実現することができる。</p>
26	戸塚区	20歳代	<p>横浜市は脱炭素化社会の実現に積極的に取り組んでいます。山下ふ頭では、〇〇大学の〇〇教授が発明した「ペロブスカイト太陽電池」や民間企業と連携協定を結んでいる「電気運搬船」など、横浜初の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待しています。</p>
27	中区	70歳代	<p>利害関係人が委員会のメンバーにいるのは、純粋な再開発検討に弊害になると思う。 知事は委員委嘱の必要性を勘案して、委員会メンバーの見直しを検討してもらいたい。</p>
28	金沢区	50歳代	<p>検討委員会の委員に事業者提案をしている法人の代表がいますが、何故でしょう。本当に他にいなかったのですか？何か忖度していませんか？ 利害関係企業の代表を地域関係団体委員に選出し続けるなら、本事業に当該企業が関わらない、落札させないことを、次の委員会の中で宣言してください。 また、第3回の委員会から、何を検討しているのか内容がよく分からなくなってきましたか？ 経団連の話とか。ご先祖とか、米中の話とか。 このまま、地元の声の大きい人に寄り添った再開発になっていくのでしょうか。 横浜市には失望です。</p>

29	瀬谷区	70歳代	<p>山下ふ頭再開発に関する私見（3-1） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>（3-2に続く）</p>
30	瀬谷区	70歳代	<p>山下ふ頭再開発に関する私見（3） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>2）再開発検討委員会の議論では毎回、横浜市の税収減が話題になります。皆さんご承知のように、横浜市の市民税は、ふるさと納税制度のため300億円以上の減収で、この影響で市バスの減便などの弊害が出ており、特に市バスへの依存度が高い高齢者が困っています。ふるさと納税による減収問題を放置しておきながら、山下埠頭の再開発で税収を増やす方策を考えるというのは行政者の判断能力が疑われてもやむを得ません。横浜市は他都市との返礼品競争で減収分を取り返そうなどと愚かしいことはやめ、まず政府に対して、毅然としてこの有害無益な制度を中止するよう提唱すべきです。</p> <p>3）幸田委員から、IR誘致問題の反省の上立って、事業計画策定の決定手続きを確立すべきとの提言がありました。私は幸田委員の提案の中でも、市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めようとの提案に賛成で、強く支持します。事業計画の策定に市民を加えるのは運営上難しい面もあるでしょうが、是非実現してもらいたいと思います。</p> <p>今回の検討委員会では山下埠頭に何をやるかを定めることが大きなテーマですが、これを最終目標とせず、山下埠頭再開発検討委員会の議論を通じて、横浜市の今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待します。</p> <p>（以上）</p>
31	港南区	50歳代	<p>山下ふ頭の再開発計画に当たっては、市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるべきです。港湾局が当初行ったような、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしいです。市幹部と企業が計画を押し進めていけば、カジノ誘致計画の二の舞になりかねません。</p>
32	港北区	50歳代	<p>市民の意見は、自分たちにとって都合のいいものしか聞きません。</p> <p>具体的には、山下ふ頭までの交通アクセスが悪いから、新たな交通を敷いたほうがいい。</p> <p>横浜市は財政が厳しく、山下ふ頭になにができるかわからないのに、そのようなことでもいいのでしょうか？</p>
33	港北区	50歳代	<p>カジノ誘致の失敗を踏まえて、山下ふ頭の再開発はゼロベースで、市民の意見を聞いては、やはり建前だと思いません。</p> <p>お盤明けに開催、市民の意見は8時半まで。市民の意見は、なるべく聞きたくないとしか思えません。</p>

			<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 1</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>標記、「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)において委員の発言等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。</p> <p>「検討委」及び検討委事務局におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第5回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。</p> <p>「寺島委員長」辞任 この横浜・山下ふ頭の将来の姿を方向づけの役割を担う重要な検討委。その「顔」が突然退任=寺島委員長辞任について、会議冒頭、市・事務局は、「本人からの申出で」と言うのみ。前回(第3回 寺島委員長欠席)検討委で委員長代理を務めた石渡委員は、「寺島委員が辞任されました」と事実関係を報告するだけ。そして、新委員長に選出された平尾委員も「諸般の事情から」とあっけない説明して次のテーマに。と、だれも真相を語っていない。市側は本検討委初回における事務局説明で、「透明性の高い運営を行う」と宣言している、にもかかわらずである。当方が、新聞報道等を総合した理由を列挙すれば、</p> <p>1 「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」</p> <p>3 「多忙」と、これらすべてが「辞任の理由」となるのであろう。</p> <p>まず前回(第3回 寺島委員長欠席)から今回の開催まで、6ヵ月も経過していることの異常さを指摘する。そのうえの委員長の辞任である。</p> <p>寺島氏自身が、自分の口から・自分の考えを、横浜市民に向かって経過説明すべきであろう。これこそ、同氏が常に言っている「説明責任」である。まさか「同責任はない」と逃げることはないと思うが、説明責任を果たさないのであれば、氏は「政治家以上の政治家」に成下がったかと扱われるべきである。少なくとも横浜市は以後、「寺島氏を市に関係する審議会・委員会等に招聘は、すべきではない」と申述べておく。</p> <p>次に、「辞任」の理由である。</p> <p>3 「多忙」。各委員がこれを理由に挙げたら、当検討委だけでなく、世界中で開催・実施される(あらゆる)会議は成立たない。寺島氏だけが特別なわけではない。しかるに、これは検討の要なし、却下。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」である。地域関係団体の本検討委への参加に懸念を表明し、検討委の本旨から外れ「利害調整の場」に墮すことにクギを刺したしたのは、北山委員であり、涌井委員(同氏はちょっと方向性が違うようにも)である。決して寺島氏ではない。</p> <p>事実、寺島氏は、市民参画が必要「意見を述べるだけじゃない、山下ふ頭を支えていく、市民がどういう責任を担いながら参画していくかが重要」と。また第1回検討委の最後には「地域関係団体からまったく意見を聞かないというのもまた、おかしな話だ」と当検討委への(「委員」での参画が否かはともかく、一般市民ではない!)が)地域関係団体の本検討委への参加・意見表明を認めている。</p> <p>寺島氏は、第2回検討委後、記者会見で、市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出るとも語っている。なにが市との相違なのか、当方には理解ができない。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い。寺島氏は、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」と。当方は、これだけの報道で詳細まで掴むことはできないが、初回検討委において寺島氏が、市・事務局に、横浜港に関する「ファクトシート」の提出を求めた。その時点から当方は疑問を抱いた。もしかして(そうでないことを望むが)氏は、今後、横浜港の港湾機能(輸出/輸入)を、どう取戻すか(再強化)が、氏の頭のどこかにあるのではないかと。夢よもう一度ではないが、横浜港の輸出/入貨物取扱量の減少、ヨコハマ・パッシング=日本海航路の活況、日本の埋没等に危惧を表明していた。それもその表れと言うこともできる。</p>
--	--	--	--

	35 鶴見区	60歳代	<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 2</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>しかし、北山委員が言うように、今後の横浜港=少なくともインナーハーバーの生き方は、「都市機能」の(必ずしも、商業主義には陥らない)発展・充実・強化。</p> <p>また、幸田委員が言う、IR=カジノの前捌きとしての港湾開発(「都市機能」)ではなく、保税地区の活用等「港湾機能」を残しつつ「都市機能」強化への変遷、ではないのか。少なくとも、当方はそう捉え・考える。</p> <p>1「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」についてである。「終わった」か否かは当人の感覚次第なので、第三者の私たちの入込む余地はない。が、「次の段階に進んだ」かどうかは、意見が分かれるのではないか。何をもち「次の段階」なのか、第3回から寺島氏自らが再三言っている「市民参画」が始まった、と言うのであれば、答えは、「否」である。当方ら、市民運動を行っている者からすれば、「地域関係団体」は「市民」であって市民ではない。また、「方針が変わった」かは、当該検討委から外されている当方らには皆目見当がつかない。ここからも、寺島氏は横浜市民に対し、辞任を決意しそこまで至った理由・経過をしっかりと説明すべきである。</p> <p>しかしながら、寺島氏は、(第2回)委員会後の記者会見で「市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出る」など、市民参画をたびたび口にしていた。当方ら市民は、これを期待していた。堅牢・頑強な市当局の厚い壁を打破れるのは、寺島氏の突破力だけだからである。</p> <p>また寺島案に近い意見として、幸田委員の発言がある。この意見をいかに発展させるか</p> <p>次に、内田委員のプレゼンについて、 本件「山下ふ頭再開発」を取組むにあたって市当局は、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」「上位概念」にまつり上げている問題がある。この「マスタープラン」は、横浜市においてカジノに言及した最初の「公式文書」だと言われている。このような、カジノを大前提とした「計画」がいまだに横浜市の街づくりの基礎に居座っていることが最大の誤りであり、事業進行の障害・矛盾の根源である。しかし、内田氏は本「プラン」を相も変わらず金科玉条のように扱っている。</p> <p>本検討委の目的は、山下ふ頭の再開発にあたっての「方向性」と「導入機能」であるが、内田氏のプレゼンは、個別・具体論にまで踏込んでいる。内田氏にはこの意味が理解できているのだろうか。しかも持ち時間を2倍も使って延々と駄作の披歴であったのだからあきれ</p> <p>内田氏は、北山委員が言った「ネガティブ・マスタープラン。つくりたくない計画という考え方もある」を肝に銘ずべきだ。</p> <p>「eスポーツの館」、「世界選手権の会場としての『山下ふ頭』で」などと言う話があった。これはパクリだ。この発想は、発言者である内田氏が考案したアイデアでもなく、ビッグデータとアルゴリズムとの融合に基づき(内田氏が借用した)AIが産出した「提案」「解決案」でもない。「(eスポーツの)世界チャンピオン決勝戦を、みなとみらいのホールでやりたい」と言ったのは、○○氏だ。「を、みなとみらいで」を「を、山下ふ頭で」に置き換えただけで、「自作」の装っているのだから悪質だ。</p>
--	--------	------	---

	36 鶴見区	60歳代	<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 3</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>本検討委は、時間ありきではない、はず。しかし、事務局は結論を急ぎ、「年内答申」をめざしている。委員会ではまだ議論すべき課題・テーマが残っている。その一つは、市民から出された意見に対する議論である。事務局は、委員会の開催終了ごとに市民意見を募っている。これはこれで歓迎なのだが、言いはなし、聞きばなしに終わっている。市民参画の一環として検討委の中で活用すべきである。</p> <p>蛇足、当方は、前回(第3回)の意見表明で、(地域関係団体間での)「親子喧嘩など当方は見たくも聞きたくもないし、関わりたくもない。レフェリー役の検討委員長や、同委員らを選出した事務局(港湾局)が、かかる見苦しいシーンが二度と再現されることのないよう調整し、会議をコントロールするよう要望する」と書いた。しかし、選出基準に問題なし、とはしないが、市の重要事業に関わる検討委員に選出された重みを考慮すれば、ケツワリはないだろう。検討委員長や事務局(港湾局)は開催までの間、何をしていたのか、問い質したい。一方、ケツワリを決め込んだ「委員」は、自らの属する検討委を軽く・甘くみているのではないのか、猛省を求める。当方は別のところでも書いたが(もちろん、当人には届いていないだろうが)、当該ケツワリ委員の本検討委「委員」選任に際し、利益相反と批判されることのないよう注意を、と呼掛けた。届かぬものをいくら叫んでも、しょせん負け犬の遠吠え。</p> <p>時間の関係上、これまで、とする。</p>
--	--------	------	---

山下ふ頭再開発検討委員会補足資料



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ハーフェンシティ(ドイツ)

- 2006年にヨーロッパで唯一の高等教育・研究機関を設立、2017年にはかつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいる。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- 都心の居住地としての魅力を高め、その上で2025年頃までに5,500戸の住居を建設することが目標として掲げられた。
- 学生5,000人に居住を目標として掲げられた。
- 経済面で魅力がある都市を目指し、**2万人の雇用を創出することが目標**として掲げられた。

想定外の課題

- 開発中に周辺にて、**地下鉄等の交通網の整備計画**が決まり、開発区域と**一貫性のある統合的な計画が必要**となった。

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- 2010年の計画変更により、合計7,500戸の住宅が2030年頃までに建設される予定となっている。現在、4,000戸が竣工し、約8,000人が入居している。
- 現在、学生約7,000人が居住している。
- 現在、**1.5万人の雇用が生まれており**、今後、**最大4.5万人の雇用が創出されると予想**されている。

課題に対する対応策

- 2010年に周辺を含むマスタープランへと改訂**され、周辺地域の役割を新たに設定しながら統合的な開発を進めている。

成功要因として評価された事項

時代の変化に合わせた開発

- 開発のコンセプトやステップ・開発業者の競争における条件等については定められている一方、道路構造や建物高さ、公共施設の配置計画等の技術的パラメータは更新可能なものとなっている。

自治体等の関わり

- 事業主体は、市が100%出資する有限会社が担っている。
- マスタープランは、民間提案から選ばれたものであり、さらに開発事業者についても街区毎に選定されている。
- 土地売却にあたっては、用途や高さ制限など多くの条件設定と土地価格のバランスにより、民間の投資を呼び込んでいる。

地域のルール

- 一貫した都市・建築となるよう、都市計画によってコントロールされている。具体的には、新しく建てられる建物の高さは一部を除き、市内中心部の建物と同じ高さになるように定められている。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

- 公的投資30億ユーロに対し、民間投資約100億ユーロを引き出した。
- 子どものいる世帯の割合が高い(ハーフェン市:26.4%、ハンブルク平均:19.0%)

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ボルチモア(米国)

- 1970年代以降、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館等の建設が進められ、現在は観光地としての地位を築いている。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- 第2期計画(1960年代の計画)は、**観光施設等を整備し、大規模集客を目指した**ものであった。

想定外の課題

- オープンスペースの管理が個々の建物所有者に委ねられ、修繕が適切に実施されない**等により景観が損なわれた。

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- 1,000万人以上が訪れ、23億ドルの経済波及効果**をもたらしたと推計されており、学術論文で成功事例として評価される。

課題に対する対応策

- 非営利法人が**オープンスペースを一元管理**するようになり、景観が整えられた。

成功要因として評価された事項

時代の変化に合わせた開発

- 再開発には、長期間の大規模投資が見込まれたため、まず小規模なエリアの開発に着手した。
- 当初のビジョンと目標を追求しながらも、詳細な計画は、柔軟に策定することで持続可能な開発に繋がった。

自治体等の関わり

- 州法に基づいて設立された非営利法人が再開発の責任を担うことで、官民協力を実現した。
- 非営利法人が、民間に土地を貸し出す利益で交通インフラの整備等を実施し、民間が施設の建設・運営に専念できる環境を整えた。

地域のルール

- 全米から専門家を集め、「建築審査評議会」を設置し、建築物のデザイン、クオリティー等の審査を実施している。

その他

- 大規模集客施設の誘致だけでなく、周辺地域との交通アクセスの確保等にも重点が置かれた。
- 土地価格の上昇で、従来の市民が住めなくなる事態を回避すべく、低価格住宅の提供等も行われた。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

- 2000年代初頭までに、不動産価格は、600%上昇し、市は年間6,000万ドルの税金を徴収した。
- 15,000人の直接雇用と50,000人の間接雇用が創出された。

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

マルセイユ旧港地区(フランス)

- 劇場、博物館、商業施設等が立地した複合的なまちづくりが行われている。倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発がなされている。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- マルセイユ旧港地区を含む再開発計画では、マルセイユ都市圏が2015年頃までに**1.5万人～2万人程度の雇用を創出することが目標**として掲げられた。
- 1ユーロの公共投資が4ユーロの民間投資を生み出すこと**も目標として掲げられた。

想定外の課題

- 港湾機能が衰退した地域であった。開発により賑わいを創出したが、**開発区域の周辺は衰退したままの状態であった。**

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- これまでに**2万人の雇用が創出**された。
- 2012年までに**5億ユーロの公共(国やマルセイユ市など)投資が、30億ユーロの民間投資を生み出した。**

課題に対する対応策

- 周辺地区と一体的な賑わいを創出するために、交通的なつながりを生み出す**アクセス機能の強化を図ることとした。**

成功要因として評価された事項

自治体等の関わり

- 開発を主導しているユーロメディテラネは、マルセイユ市、マルセイユ都市共同体等の地方共同体に加え、国益に資するという観点から国が関わっている。
- 国と地方公共団体の代表からなる役員会のメンバーが年に2回集まり、予算/決算・公共団体と民間企業との協定の締結等に関する議事について討議・調整が行われている。
- 国が関わること(具体的には、事業の承認を国として行うこと)で、国が運営・管理に係るヨーロッパ地中海文明博物館等の改修・移転等の開発が進められた。
- ユーロメディテラネでは、持続可能な都市イノベーションを生み出すことを目指し、ビジネスセンターを構築することで企業の誘致や起業家の支援や都市開発プロジェクトの実現と理解を促進するためのワークショップ等を行っている。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

その他

2010年3月に大学まちづくりコンソーシアム横浜()が取りまとめた「海都横浜構想2059」
において参考にした事例(北山委員提供)

大学まちづくりコンソーシアム横浜: 神奈川大学、関東学院大学、東京大学、横浜国立大学、横浜市立大学による連携組織。故北沢猛氏、北山委員が参画

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

1. ヴェネチア(イタリア)

・ジャルディーニ

都心近くの造船所跡に設けられている都市公園。低い建蔽率で各国のパビリオンが建てられ、ビエンナーレの会場として使われている。都市観光のエンジンとなっている。

全体写真



公園の様子



セルビアパビリオン



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

2. シドニー(オーストラリア)

- ・王立植物園
- ・オペラハウス、およびコッカトゥーアイランド

シドニー湾の都心に設けられた美しい水際公園。公園内に有名なオペラハウスが建っており、湾内にある造船所跡地のコッカトゥーアイランドには、キャンプ施設が設けられ市民の憩いの場になっている。

全体写真



王立植物園



オペラハウス



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

3. ポートランド(米国)

・パールディストリクト

ポートアイランドの港湾機能が衰退した地区の再開発。既存ホテル(エースホテル)をコミュニティ拠点とし、倉庫のリノベーションによるギャラリー、ショップの設置やLRT・ストリートカーの導入を行っている。創造都市の拠点として成功している事例。

全体写真



倉庫をリノベーションした店



LRT / Streetcar



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

4. アムステルダム(オランダ)

ボルネオ地区、スポーレン地区はアムステルダムの都心から近い埋め立て地。低層の住宅地として開発されている。高密で、居住とオフィスやショップが混在(hi-density hypermix)した街。

全体写真



住宅地の様子



パイソブリッジ



2.交通ネットワーク

1月12日委員会資料抜粋(ファクトシート【基礎資料編】P19)

首都圏の広域ネットワーク

東名高速道路、中央自動車道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成



2. 交通ネットワーク

都心臨海部の主な交通ネットワーク

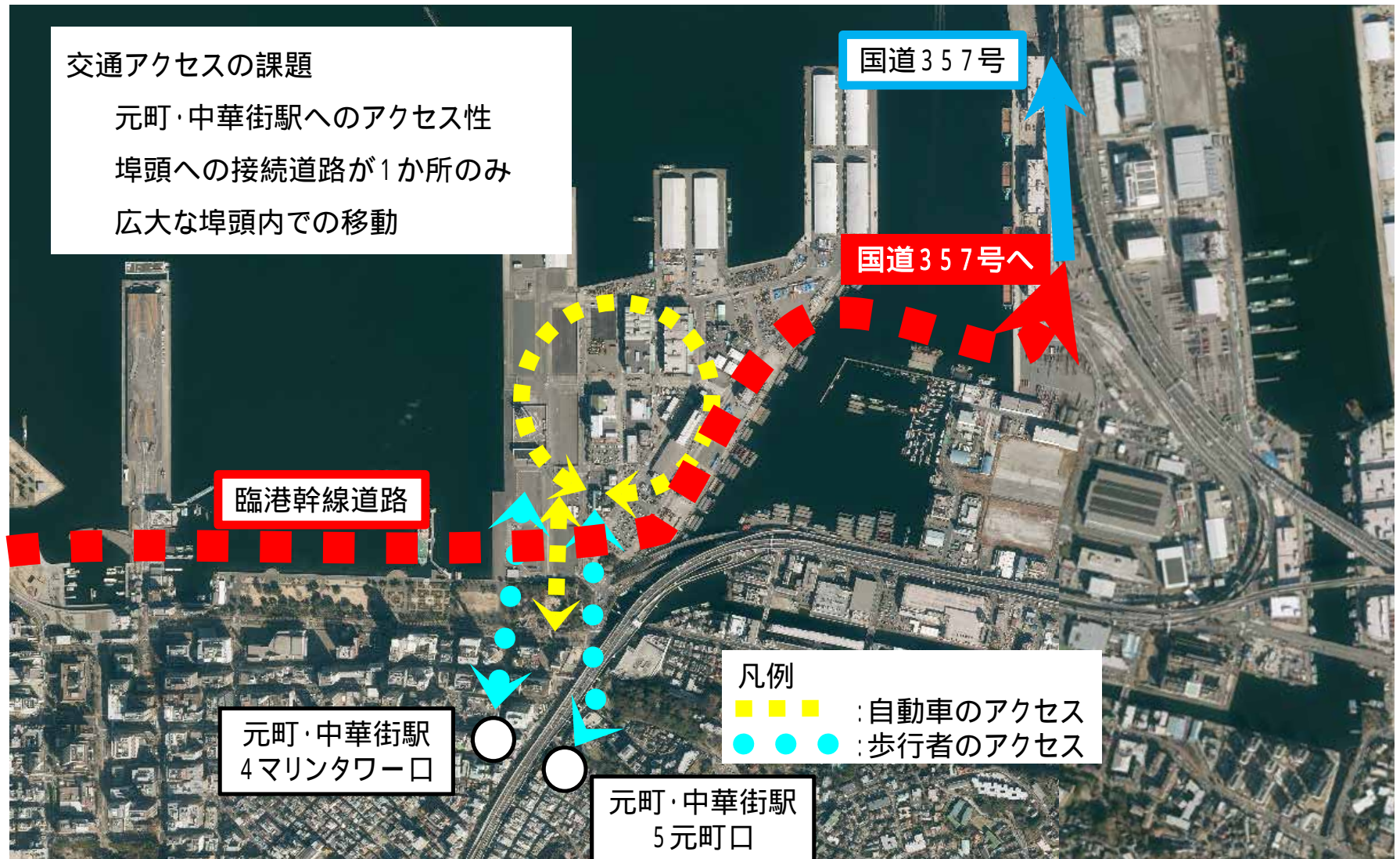


2.交通ネットワーク

山下ふ頭への交通アクセス

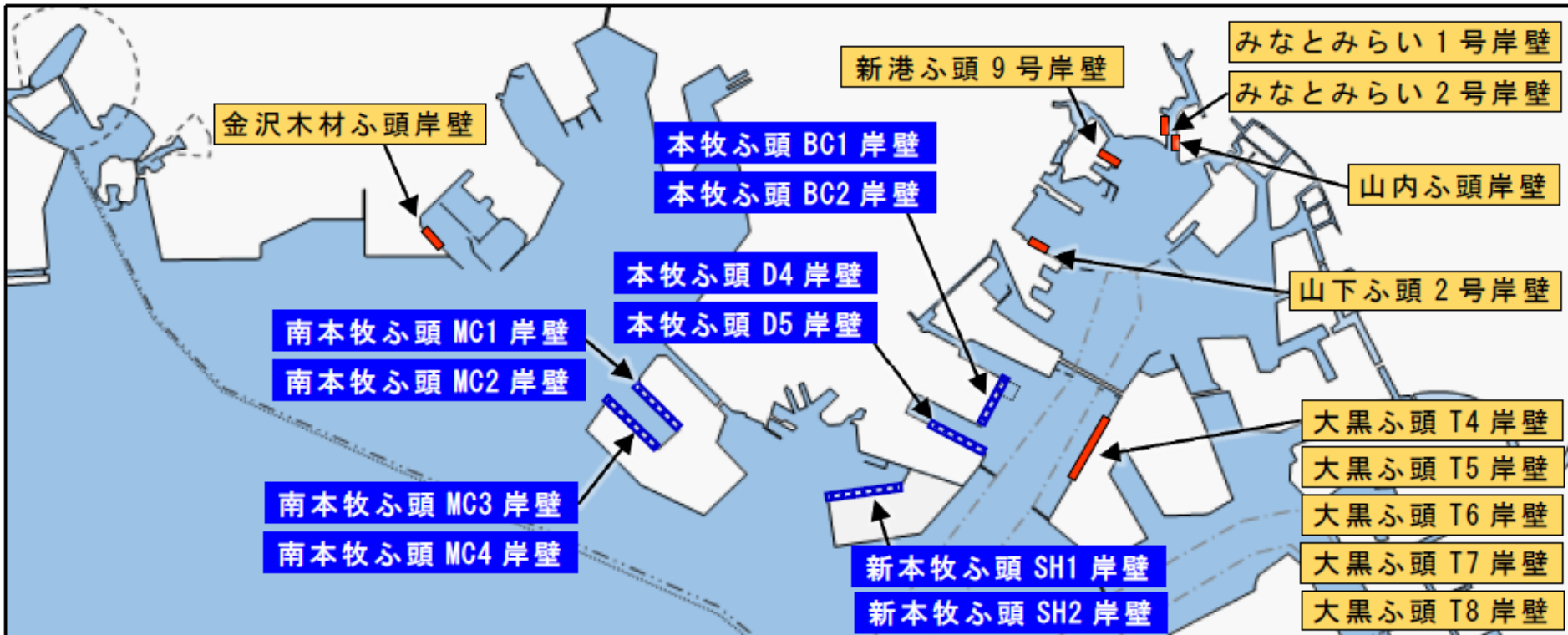
交通アクセスの課題

元町・中華街駅へのアクセス性
埠頭への接続道路が1か所のみ
広大な埠頭内での移動



3.耐震強化岸壁

耐震強化岸壁の整備状況



	役割	凡例	バース数	延長 (m)		整備率 (%)
				計画	整備済	
緊急物資輸送用 耐震強化岸壁	緊急物資受入のための 海上輸送拠点		12	2,085	915	43.9%
幹線貨物輸送用 耐震強化岸壁	災害時であっても 国際物流機能を維持		10	4,050	1,670	41.2%

新港ふ頭9号岸壁は 1岸壁 2バース換算

3.耐震強化岸壁

山下ふ頭における耐震強化岸壁(計画)

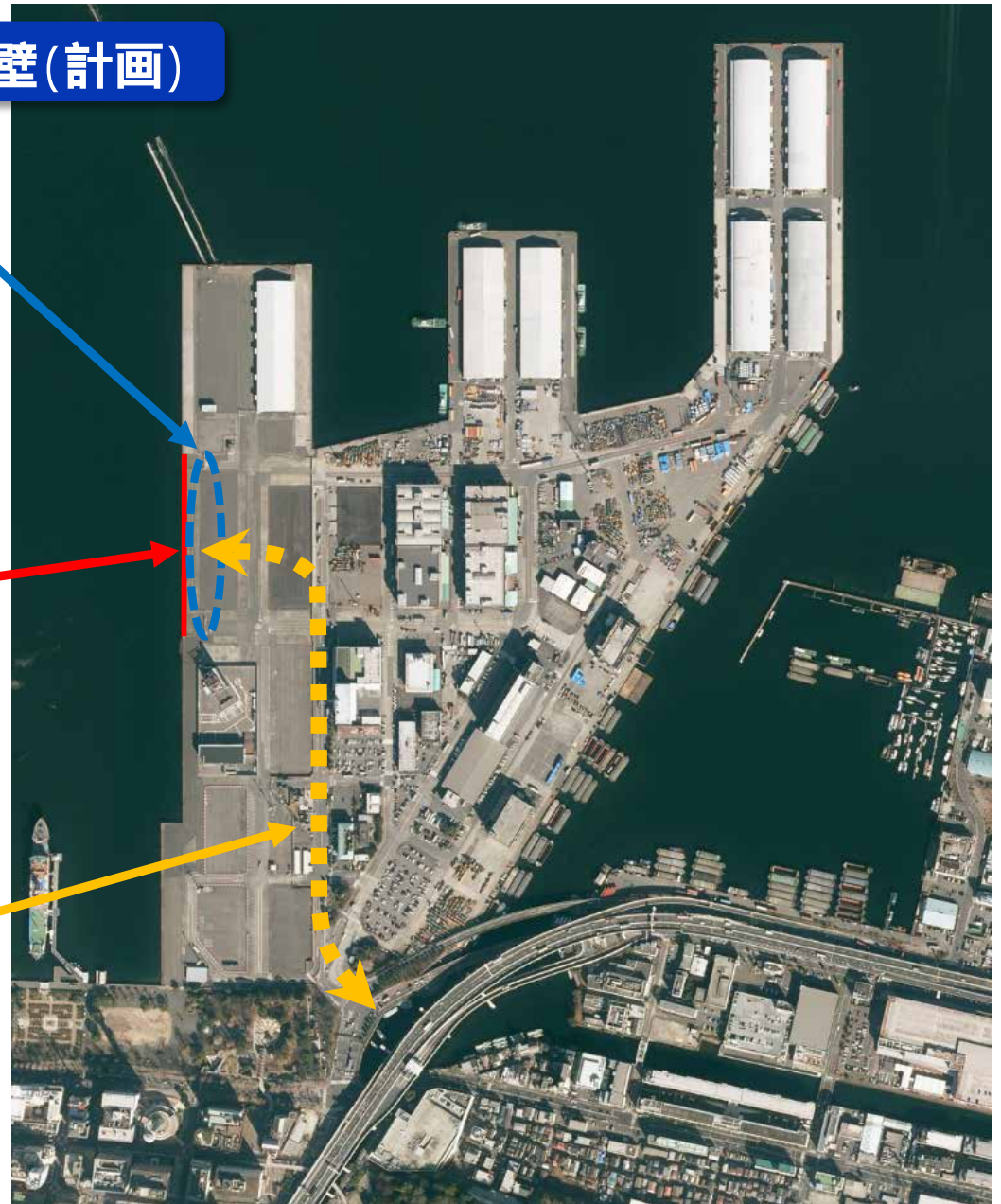
ふ頭用地(荷さばき地)

【山下ふ頭2号岸壁】

(延長200m・水深12m)

災害時に背後の荷さばき地や
オープンスペースと一体的に利用
することで、水や食料などの緊急
物資や復旧資機材等の輸送を確
保するための海上輸送拠点

緊急輸送路



意見書

1 団体概要

(1) 団体名

協同組合元町エスエス会

(2) 構成会員数

212

(3) 設立年

昭和 25 年（1950 年）

(4) 設立趣旨

元町で商う店舗が一体となって共同宣伝、共同売出し、共同施設の設置・運営管理、経営・技術の改善・向上等に取り組むことで、会員店舗の売上の増加を図り、以って元町商店街の発展に寄与することを目的として設立。

(5) 主な事業活動

販売促進イベントの企画・実施および広告・宣伝業務、クレジットカード包括加盟店業務、不動産賃貸・共同施設の管理、街内清掃・安全対策業務、Free Wi-Fi の管理・運営など

2 山下ふ頭再開発に向けての意見

（まちづくりの方向性や再開発を進めるにあたって検討すべき事項等）

【近隣エリアのアクセス状況について】

山下ふ頭の周囲には、元町をはじめ中華街、山下公園通りなどの商店街が多数存在しており、そこには多数の観光客、就労者、居住者がおります。

山下ふ頭地域は、現在でも多くの観光客、物流などの車両が行き交うエリアとなっていて、車で山下ふ頭にアクセスする場合、現状、山下長津田線を利用するしかなく、山下長津田線は交通量が多く、頻繁に渋滞が発生している状況です。

また歩行者についても同様で、隣接する元町・中華街駅からのアクセスについても横断歩道が限られた個所に設置されており、歩行禁止場所などもあることから、近隣エリアからは近くても訪れるのに時間のかかるエリアとなっております。

【山下ふ頭近隣エリアの交通インフラ整備】

山下ふ頭は47haあり、赤レンガ倉庫、ハンマーヘッドがある新港ふ頭41haよりも広いエリアとなります。

その新港ふ頭地域には、年間約1,770万人が来街しておりますが、それに対するアクセスが、山下公園側、馬車道方面、みなとみらい方面と多岐に渡っており、近隣エリアとのアクセスが非常に便利で、特に、歩行者や車での来街者にとっては、訪れやすいエリアとなっています。

それ以上に年間来街者数が予想される山下ふ頭エリアを訪れる方々にとって、まずは安全にそのエリアでの時間を過ごしてもらう為にも災害等での避難経路の確保といった側面も考慮していただきたいことと思います。

現在、水上交通網の整備が近隣エリアで進んでおり、山下ふ頭に隣接したエリアでは、陸及び海からのアクセスが格段に向上していきます。周辺地域の回遊性を重視する立場から、このことを鑑みると、観光客、就労者、車両、物流などの歩車道に加え、災害時の避難経路を確保することが、最も大事な要件であると考えられます。

これにより山下ふ頭の再開発と同時に、周辺交通インフラの整備を行って頂きたいと要望します。

<みなとみらい21・新港地区のデータ>

	みなとみらい21地区	(新港地区)
来街者数 ^{※1}	7,730万人	(1,770万人)
就業者数 ^{※2}	134,000人	
面積	182ha	(41ha)

※1 令和5年1~12月における年間来街者数

※2 令和5年12月時点

【出典】

- ・令和5年みなとみらい21地区来街者調査
- ・みなとみらい21 Information2024 Vol.95





出典：よこはまマップをもとに作成
(中区区民生活マップ)
(c)GeoTechnologies, Inc.
(c) PASCOR CORPORATION

意見書

1. 団体概要

- ① 団体名 神奈川倉庫協会
- ② 構成会員数 204社
- ③ 設立年 1947年10月31日
- ④ 設立趣旨 神奈川県内において倉庫業を営む者をもって組織し、会員相互の親睦を図り、併せて倉庫業に関する調査、研究及び各種情報の交換、普及等を行い、斯業の健全な発達に資することを目的とする。
- ⑤ 主な事業活動
 - (1)人材育成活動
 - (2)防災安全衛生活動
 - (3)法令遵守活動
 - (4)環境保全活動
 - (5)監督官庁への窓口業務、貨物動向等統計資料の作成等

2. 山下ふ頭再開発に向けての意見

1) 倉庫と山下ふ頭との関わり

我が国最大の国際貿易港である横浜港を構成する山下ふ頭は、供用開始の昭和38年以来、多くの倉庫事業者が参入し、横浜港の貿易活性化に大きく寄与して参りました。60年の長きに亘り事業を営み、多くの従業員が働いて参りました、とても思い出のある大切な場所です。

2) 要望事項

① 山下ふ頭再開発における交通問題

山下ふ頭の再開発に際し、これまでにない大きな規模の新しい人流が発生するものと思われます。

山下ふ頭周辺道路は我々物流事業を営む者だけでなく、生活道路として市民生活にとりましても重要な道路であるため、周辺交通網の整備、又、海上交通を含めた新たな交通網の拡張等アクセス手段の拡充をお願い致します。

② 山下ふ頭再開発に際し

山下ふ頭は、横浜港頭地区にありながら、横浜市街にも近い好立地にあります。

是非、この魅力的なロケーションを活かした事業開発として頂きますようお願い致します。

又、従来、我々物流事業者は、横浜市に於いて経済面だけでなく雇用の促進も担ってきましたので、山下ふ頭がいかなる開発事業になったとしても、採算性の良い、横浜市にとっても経済効果が上がり、雇用を創出する持続可能な事業開発となりますようお願い致します。

③ 山下ふ頭の防災拠点機能

- ・山下ふ頭の船舶が着岸出来るバース機能を活用し、災害時の海上輸送ルート及び、援助物資の保管拠点機能の確保をお願い致します。

以上

2024年8月22日

横浜港運協会
会長 藤木幸太

意見書

1. 横浜港運協会の概要

- ① 団体名 : 横浜港運協会
- ② 構成会員数 : 236社（窓口店社数）
- ③ 設立年 : 1956年4月1日
- ④ 設立趣旨 : 横浜港における港湾事業全般の事業の秩序を保ち、さらに横浜港の発展に寄与することを目的とした団体。港湾運送事業法に基づく事業許可を得ている事業者を主体として横浜港地区における運送事業を生業とする事業者から構成され、横浜港における日常の運送事業の秩序形成を行い、横浜港の将来の発展のために、経済・社会・技術開発情勢に則った戦略の立案と、行政への要望・要請を民間事業者の立場から実行する為に設立されました。
- ⑤ 主な事業活動 : 1859年の横浜港開港以来、165年の間、横浜港の発展に寄与して来ました。戦後の横浜市への移管後も横浜港の発展に努力して来ましたが、地方自治体のみによる港湾管理に限界があること、我々自ら国が直接関与する国家戦略として横浜港を位置づける必要を感じて、2009年に国際戦略港湾の必要性を政府に主張して「国際コンテナ戦略港湾政策」として2011年に位置づけられるように致しました。当時は、横浜港・川崎港・東京港で地方自治体のみで集結する「三港連携」が他方で始っていましたが、これに対して国家戦略港を提唱しました。国際戦略港湾となったことで、国の投資が可能となって、今の南本牧の日本一のコンテナターミナルが実現したことは、結果として我々の主張が正しかったものと思います。

横浜港・南本牧コンテナターミナルは700か所に上る世界のコンテナターミナルのランキングでトップテン以内に10年以上続けて入っています。このランキングは取扱量ではなく、①生産性、②信頼性、③サービス性のこれら要素の総合評価です。このように港運事業者として世界トップテンに入っており、今も継続して輝かしい成果を上げています。

2011年3月11日に発生した東北沖大震災では、原発の爆発事故による放射能汚染が広がり、横浜市で発生した高濃度下水道汚泥焼却灰の南本牧への埋立を即時阻止して造成地の放射能汚染から守りました。この結果、今では南本牧地区では安心して大型倉庫も建設・運営できるようになっています。汚染された土壌では特に食品関係の物流事業はできなくなります。

山下ふ頭へのIR/カジノ誘致には真っ先に抵抗し、結果的に山下ふ頭へのIR/カジノの誘致を阻止しました。これからも我々港湾人・横浜港運協会は横浜港の良き発展に尽くして参ります。

2. 山下ふ頭再開発に向けての意見

① これまでの山下ふ頭との関わりと今後の雇用確保

山下ふ頭の最盛期には港湾物流事業の従事者が約 5,000 人以上働いたこともあり、活況を呈していました。また、昭和 40 年代、50 年代は付近の治安は荒れていて、仕事に支障も生じたほどでした。そこで我々港湾物流事業者を中心に、山下ふ頭及び周辺的环境を良くする努力を行い、今や一等地となりました。この努力に報いるためにも我々港湾物流事業者の雇用の確保を是非検討して頂きたいと思えます。

② 山下ふ頭の現況と我々の事業継続の可能性の検討

山下ふ頭は在来船貿易の拠点からコンテナ物流が主体になって、その存在意義が消失しましたが、近年、国内の宅配の急増に伴い、国内物流と国際物流をつなげる山下ふ頭の地理的位置の価値が大きくなり、この好位置の結節点として山下ふ頭の物流拠点としての利用可能性が期待されています。是非、この観点からの考慮をして頂き、物流に関連する開発事業及び雇用の確保につながる再開発の可能性について検討して頂きたいと思えます。

③ 保税地区の継続

山下ふ頭は現状全域で保税地区指定されています。再開発に当たり、他に例を見ない保税指定地区であることを生かした開発を進めて頂きたいと思えます。そのため将来にわたり保税地区指定を外すことなく保持して頂きたいと思えます。

④ 臨港地区・商港区の継続

山下ふ頭は横浜港の臨港地区として地区指定されていて、港湾機能が十分に発揮できるようになっています。今後開発を進める際も、世界の先端に行く横浜港としての一翼を担い続けながら港湾機能を最大限に取り入れて進めるべきだと思えます。

⑤ 海運を利用した交通網の構築

新港ふ頭、大棧橋、大黒ふ頭、中村川、大岡川、さらに横浜駅方面、羽田空港、東京方面などと山下ふ頭を海上交通網で結び、集客体制を確立して頂きたいと思えます。この海運による交通網の整備がなされてはじめて、山下ふ頭に多くの人々を受け容れることが可能になると思えます。

⑥ SDGs の導入

山下ふ頭には上屋も残っており、ここで最新の太陽エネルギーを利用する実証事業などを行って頂きたいと思えます。いずれ横浜港全体に導入することを考慮すると、その前段階でしっかりと実証する場として山下ふ頭に残っている上屋など設置可能な空間を利用して事前検証・評価した上で横浜港全体に広げて頂きたいと思えます。

以上。

山下心頭再開発検討委員会
第1回～第4回の意見のまとめ



第1～4回の意見のまとめ

まとめ資料作成までの流れ

①学識者委員の皆様のパレゼンテーション

②地域関係団体委員の皆様の見書

③委員会での議論

①～③の内容を踏まえて整理し、16のカテゴリーに分類

第1～4回の意見のまとめ

分類した16のカテゴリー

- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市民合意形成、プロジェクト体制
- 観光・インバウンド ■横浜の魅力・ブランド力の向上
- 周辺地域への波及 ■国内外から人々が集まる
- 横浜経済を牽引 ■防災・安全
- 交通ネットワーク ■脱炭素(環境・エネルギー等)
- 市域全体と連動した賑わい創出
- 海に囲まれた立地特性 ■歴史・文化 ■緑・水辺
- 景観形成 ■デジタル活用

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

長期的な
視点に
基づく開発

- 50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。
- 美しい街、強い街でなければならない。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進めることが必要。
- 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのは全然ダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。
- 現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのおかげと言ってもらえるようにしたい。
- 税金を投入しなければ成立しないプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。(市民意見等)世界に誇れるダイナミックな未来像を描くとともに、将来を見据えたまちづくりを期待。

- トップランナーとして世界のウォーターフロント開発を先行し、国内外に誇れる横浜を作るために、50年後、100年後を想像しながら、未来に負担を残さない持続的な運営が可能な開発を行うべき。

Point 2

発展を
支える
イノベーション
・教育

- 日本では、海外からの直接投資が少なく、増加に向けて、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。
- 日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということをもとに考えていくことが必要。
- バーチャルリアリティの館として、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。
- 教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。
- 段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用していくべき。(市民意見等)企業誘致による産学連携。(市民意見等)先導できるグローバル企業を誘導して、山下ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進。

- 次世代のニーズに応え続けるイノベーション創出や、海外からの直接投資を増加させる観点で、企業・大学の誘致等による教育的役割の付加や世界中の一流人材の確保を目指すとともに、新たな技術等の社会実証の場として活用していくべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につながる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 3

次世代に
渡る
市民生活の
安定

- ・ 中長期的な視野、時間軸で、横浜経済を動かし、市民生活の維持につながる再開発の方向性を考えることが必要。
 - ・ 現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討すべき。
 - ・ 再開発の内容を民間主体で運営する場合、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、新しい未来に向けた若者のため、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。
 - ・ 都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。
 - ・ 顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。
- (市民意見等)いま横浜で生まれているハマッ子に未来を任せられるようなまちづくり。
(市民意見等)国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視。

- 子世代、孫世代のための都市の構想と、税収効果を図る取組や、将来に渡る経済効果の維持を両立させることで、市民生活を支える持続可能な開発を実現するべき。

Point 4

柔軟な
開発計画

- ・ 巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要がある。一度に全てを作り上げていく考え方は不適合であり、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていく上で戦略的に誘導することが重要。
 - ・ 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。
 - ・ この計画も50年とは申しませんが、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。
- (市民意見等)2050年位を目指して、社会情勢にフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。
(市民意見等)二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発が可能となる。

- 山下ふ頭全域で統一されたテーマを持った上で、将来の情勢やニーズにも柔軟に即応できるよう、一定規模のオープンスペースを確保するなど、開発余地を残しながら段階的に整備を進めていく計画を立てることも考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

市民のための 再開発

- ・ 横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- ・ 定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。
- ・ 経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。
- ・ 経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形で活用するという問題意識が、両輪で必要。
- ・ 市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないことも避けるべき。
- ・ 横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。
(市民意見等) 憩える、学べる、市民も楽しめる。

- 市民が憩い楽しむとともに、自然やコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを求める人々が集う空間を提供するような新たな都市モデルの追求も考えられる。
- 横浜市がイニシアチブを持って市民のために再開発を行うという視点と、経済成長や財政収支などのファンダメンタルズを両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。

Point 2

横浜市全体の プロジェクト 体制

- ・ 市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。
- ・ 横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。
- ・ 山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。
- ・ 検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与等が必要不可欠。
(市民意見等) 再開発は横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべき。

- 市の関係部局が横断的に連携して中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発とするべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 3

答申策定後 に経るべき プロセス

- ・ 住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとすることは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけではなくて、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してはどうか。
- ・ 市民からの意見の中に「参画」という言葉があり、市民が参画できるようなものを意図するということが問われていると思う。
- ・ 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発していただきたい。
- ・ 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。
- ・ 横浜市資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。
- ・ 事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどをしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。
- ・ 横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインを改めて議論することが必要。
- ・ 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。
- ・ 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論していただきたい。
- ・ 市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。
- ・ 大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なものは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。
(市民意見等)「横浜らしさ」の愛着と誇りを持ち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくり。
- ・ (市民意見等)民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。

- 答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を実施するプロセスを経ることが適当であり、加えて、市民参画の在り方や、開発に対する市民意見の伝達手法等についても考慮する必要がある。
- 山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、横浜港あるいは市域全体のランドデザインとの関係性を常に意識し、事業のあるべき姿について十分な議論・審議を行っていく必要がある。

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

観光・
インバウンド
の必要性

- ・ ダイナミズムで引きつける力、横浜がすごいことを始めたなど国内外から関心を惹きつけ、人流、投資、あらゆる面で引きつける力の醸成を考えつつ、議論を深めることが必要。
- ・ 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にするか。
- ・ 人口減少による観光客減少の対策にインバウンド戦略として外国人を呼び込み稼働率を高める取組が行われている。
(市民意見等)世界から人が集まり、国際交流の拠点になる。

- 既存の観光資源の活性化も含めた経済成長に向けて、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込む取組を行い、海外からの関心、人流、投資等を引きつける必要がある。

Point 2

観光資源の
事業性確保

- ・ 観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。
- ・ インバウンド戦略によるインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。

- 観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。

Point 3

インバウンド
のニーズを
捉えたコン
テンツの提
供

- ・ 幼少期に触れた日本のアニメ・漫画・ゲーム等のポップカルチャーのクリエイションが、外国人の日本への憧れを抱く具体的な内容になっている、ということへの意識も非常に重要。
- ・ 来日するインバウンドの目的地が横浜ではない現状を打破するためには、世界的に、日本文化への好感度が非常に高いことを踏まえ、我々が再評価して、日本の文化の価値を認め形にすることや、世界基準である、老若男女多様性すべてを受容する寛容性が必要。
- ・ 今後世界の多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- ・ 歴史・文化を中心とした施設は多様性がなく、魅力が少ない。ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等の都市の文化を展開するためのインフラ投資と整備を進め、多様なアピールをした結果、7年間で外国人観光客が4倍に増加した。
(市民意見等)これからの子供たちと世界のファンに多様な刺激を与えるための、アニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設。

- インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、例えば外国人が憧れるポップカルチャーやデジタルコンテンツを盛り込むなど、その価値を形にしていけるべき。
- ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等、今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

近隣の 観光資源と の連携

- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。
(市民意見等)観光のハブになり、周辺地域と連携・相乗効果を発揮する。

- 観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。

Point 5

宿泊に繋がる 魅力創出

- ・ 観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。
- ・ 常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えたときに、付加価値の高さを重視することが重要。
- ・ クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。
- ・ 市の観光の中期目標は、2030年に5,000億円。現在は観光客の9割が日帰り、今後さらに日帰り観光客だけが増加すると、オーバーツーリズムを引き起こすうえに、単価が安い。客単価、宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。
(市民意見等)現在の「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。滞在時間が増加する取組が必要。

- 経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜の魅力・ブランド力の向上

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

横浜の
魅力・
ブランド力
の向上

- 古きものを尊重しながら新しいものを添えていく、横浜ブランドを再度磨き上げる取組は、山下ふ頭の再開発と密接不可分。
- 横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。
- ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献を検討していることが非常に重要。
- 横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与することも考えられる。
- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されていると思料するが、さらに評価を高めるために防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応える土地利用を考えた時に、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどのように創出するか。
(市民意見等)今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。

- 古きを尊重し、新しいものを添えていく、横浜の不易と流行を組み合わせて、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。
- 地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。
- 横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応えていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。

Point 2

新しい時代
の象徴と
なる
ウォーター
フロント
開発

- 先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。
- 再開発を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持が両立し、経済効果も生み出しつつ、持続性のある方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承する必要があるものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげるのが理想。
- ウォーターフロント開発のトップランナーになる可能性。世界の事例を目標とせず、先行する意識で夢のある内容を議論したい。
- 港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、今後の臨海部再開発のモデルになる自負を持って取り組むということが重要。
- グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。
(市民意見等)「これまで培われた歴史・文化」、「新たなテクノロジーやサスティナビリティ」、「多様な人々と価値観」を融合してイノベーションを起こし続け、今後の内港地区や横浜全体を牽引する場所とする。

- 未来を担う若者のために、先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技や伝統等、継承すべきものを混在させた拠点形成を進めるべき。
- グローバルで新しい社会に合致し、世界のウォーターフロント開発を先行するような臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

周辺地域への波及

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

地元経済への 貢献と 雇用創出

- 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発して、観光客やビジネス客等の交流人口の増加や雇用創出を図るべき。
- 地域への経済効果が、雇用をはじめ、可能な限り域外に流出せず、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。
- このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。
- 港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。
- ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能である。
- 人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることを焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。
- 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。
- 横浜の独自性を発揮し経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていくことが必要。
- 大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要。
(市民意見等)企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべき。
(市民意見等)再開発により創出されるビジネスや技術をまちづくりへ還元していくべき。

- 新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。
- 再開発を契機とし、周辺地域で働く方々の収益向上や、消費・雇用の創出を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。
- 新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

人々を惹きつけ続ける開発の実現

- ・ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。
- ・地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。
- ・東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が色々な観光資源を参考に、かなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。
- ・時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。
(市民意見等)わくわくする体験ができ、世界から注目される。
(市民意見等)様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。

- 山下ふ頭が国内外からの関心、人流、投資等を引きつける力を醸成するために、プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーが必要。
- 東京湾全体の港や空港の機能を踏まえ、人流の動向を意識することが必要。
- 顧客のニーズが変わっていく中で、時代遅れとならないために、投資をし続ける覚悟が必要。

Point 2

独自の魅力構築

- ・東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。
- ・都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。

- 周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発により、独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。

Point 3

大規模集客施設の導入等による活性化

- ・横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。
- ・このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設やホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤を目指してほしい。
(市民意見等)スポーツ施設のある市民のための再開発。
(市民意見等)世界最高水準の国際展示場とコンサート・スポーツイベント会場のハイブリッド型中核施設を導入する。

- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

インクルー
シブな空間
づくり

- 周辺の事例等も参考にすることで、横浜の名所として市内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。
- 憩いの場としては、市民が自由に使える、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。
- 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。
(市民意見等)幅広い世代の誰もが楽しめ交流できる。

- 横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、誰もが自由に楽しめ、賑わいが創出されるような、インクルーシブな空間を整えることが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

Point 1

地域経済の活性化

- 意見(抜粋)
- 地域の定住人口減少化において、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。
 - 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済を牽引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとなるよう、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。
 - 山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討することが必要。
 - 日本を代表する都市として発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。
 - 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。
 - 横浜の成長を牽引し市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。
(市民意見等)市全体の活性化に寄与する。
(市民意見等)山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では新たな賑わいが生まれ、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれる。

Point 2

市の収益向上と市民への還元

- 生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には税収を生み出す場所としての観点が不可欠。
(市民意見等)市民への還元と税収の確保。

意見要旨(案)

- 定住人口が減少する時代にあって、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。
- 横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。
- 横浜市民に憩いの場を提供する取組と、横浜経済を活性化させる視点を両立させ、市民のより豊かな生活に繋がる場所とするべき。
- 市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

Point 3

我が国の
貿易との
関係性

意見(抜粋)

- 強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を生かしつつ、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたすための場所として活用する発想を持つことも有効。
- 横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置付けと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい。
- 再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。

意見要旨(案)

- 東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

防災・安全

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

市民の
安全安心

- 3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。
- 世代を越えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。
- 防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。
- 横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。
(市民意見等)過去の大地震の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。
(市民意見等)大地震や津波から守る最先端の防災対策。

- 世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入すべき。

Point 2

リダン
ダンシー性
の高い
まちづくり
への貢献

- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。
- 関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。
(市民意見等)災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ハリポートなどの災害発生時に使える施設。

- 旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

交通ネットワーク

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

陸海からの
交通
アクセスの
向上

- ・ 現在 1 か所しかない進入路の機能向上についても検討してほしい。
- ・ 横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。
- ・ 山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただく、都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルをうまく回遊性が取れるような道路になる。
- ・ 旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。
- ・ 交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。
(市民意見等)陸・海・空、海外からもアクセスしやすい交通機能の導入。
(市民意見等)横浜内港の各地区を歩行者ネットワークでつなげることで、それぞれの機能を連携させ、魅力的な臨海部を形成できる。

- 山下ふ頭への新たな進入路の確保や臨港幹線道路の整備等により、来街者の利便性向上を図るとともに、客船誘致に向けた整備を更に推進していくべき。
- 市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。

Point 2

多彩な
交通手段

- ・ 山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。
- ・ 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。防災の観点でも海上交通がかなり重要な役割を果たす。
- ・ 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。
(市民意見等)自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にする。
(市民意見等)スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動促進や、自動運転モビリティの導入。

- 三方を海で囲われた立地条件を最大限生かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
- ロープウェイ、空飛ぶ車を含めた多彩な未来の交通手段、元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区との回遊性を高めるモビリティ等の導入も目指すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

脱炭素(環境・エネルギー等)

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

脱炭素型の 再開発

- ・ 脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。
- ・ 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。
- ・ ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO₂の排出量を抑えられるような開発を進めることが必要。
- ・ 防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。
(市民意見等)太陽光やバイオマスなどの地球温暖化対策に資する施設。
(市民意見等)グリーンインフラ(緑化)の導入やクリーンエネルギー(水素)の活用。

- カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小化した施設の導入や、用途に応じた域内でのエネルギーのベストミックスの取組等により、日本初の脱炭素型の再開発プロジェクトを目指すべき。

Point 2

脱炭素の 取組・魅力 の プロモーション

- ・ 横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。
- ・ サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくことも重要。
(市民意見等)横浜発の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。

- 再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取組を国内外に広くプロモーションする場所としても活用するべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

市域全体と連動した賑わい創出

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

都心臨海部、
横浜市全体
への波及

- ・ 欧州全体のソフトウェアのベースとなったイーストロンドンの成功事例等のように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。
- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。
- ・ 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。

(市民意見等)山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。
(市民意見等)周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。

- 元町や中華街、山下公園通りなどのエリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような再開発とするべき。

Point 2

巨視的な
視点を
持った開発

- ・ 日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。
- ・ 山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。
- ・ 山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こすことが必要。

(市民意見等)再開発においては、広域的(東京湾全体、横浜市全体等)な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。

- 経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響も考慮する必要がある。

カテゴリー別意見とりまとめ

海に囲まれた立地特性

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

立地特性の活用

- 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭が一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのかなり重要である。
- マリントワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけを感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要。
- 素晴らしい立地環境と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。
- 立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実が必須。
- 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切。(市民意見等)海に面する特性を活かす。
(市民意見等)特異な立地を生かした横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人物・情報の集まる拠点形成すべき。

- 観光産業等の活性化や、水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする方々からの映り方等、再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を十分に活かしていくべき。

Point 2

海を活かした人材育成

- クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快楽を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。

- 将来の海洋人材などの育成に向けて、若い世代への教育的な役割が果たせる開発も考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

歴史・文化

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

横浜の歴史
を踏まえた
開発

- 横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがそれぞれの時代に合わせて積み上げた歴史を紡ぐことが必要。
- インナーハーバーと称される最後のエリアとして、山下ふ頭が総仕上げになるような形で、点在している文化とか技術とか歴史をネットワーク化してすべてがつながる形で完成されることが適当。
- 横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史があり、独自の都市文化、地理特性が備わっていることから、こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべき。
- 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としていただきたい。
(市民意見等)横浜のアイデンティティ、歴史文化を尊重し、横浜らしさが感じられるまちづくり。
(市民意見等)開港から紡がれてきた想いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。

- 160余年に及ぶ横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。

Point 2

歴史文化の
魅せ方

- 外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。
- 歴史・文化だけでは多様性がないため、インフラ投資による都市の文化、具体的にはショッピングやナイトライフ、日本の食文化、アクティビティなど、様々なアピールをすることが重要。
- 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。
(市民意見等)文化、芸術を発信し、体験ができる。

- インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱くサブカルチャー、食文化、国際交流の歴史等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

緑・水辺

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

緑で
つながり
市民が
憩える
空間づくり

- ・ 地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- ・ 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい 21 地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース(BAYWALK YOKOHAMA)や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。
- ・ 港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。
(市民意見等)山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。
(市民意見等)ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードを整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。

- みなとみらい21地区の水際線から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線の繋がりを生かしながら、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性の向上を図るとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保していくべき。

Point 2

水辺空間の
有効利用

- ・ マリントワーに登ってみると横浜のとてもし美しい港に船がほとんどない、水面があるだけ。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- ・ 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。やはり水際という非日常空間を生かすべき。
(市民意見等)海や港を身近に感じ、港町の風景が見られる。

- 海外の事例も参考にしながら、水面の賑わい創出や水際における非日常空間の形成等、ウォーターフロントの都市として相応しい取組を進めるべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

景観形成

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point

景観を 考慮した 開発

- 船で帰ってくる時の景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。
- 山下ふ頭は、ベイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。
- 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- 横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを押さえることも必要ではないか。

(市民意見等)周辺と調和のとれた景観づくり。

(市民意見等)内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。

- 横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえつつ、海陸両面の視点場からの山下ふ頭の見え方や、周辺地区との景観のバランスを意識した開発とするべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

デジタル活用

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point

デジタル時代への対応

- デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。
(市民意見等)DXの導入等、先端技術を活用する。
(市民意見等)スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。

- 横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を踏まえるとともに、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することも考えられる。

答申のイメージ(案)

1 まちづくりの方向性

- 横浜経済を牽引
- 横浜の魅力・ブランド力の向上
- 国内外から人々が集まる
- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市域全体と連動した賑わい創出

2 新たなまちを支える基盤・空間の考え方

- 海に囲まれた立地特性
- 交通ネットワーク
- 緑・水辺
- 景観形成

3 再開発に必要な視点

- 脱炭素(環境・エネルギー等)
- デジタル活用
- 防災・安全
- 周辺地域への波及
- 観光・インバウンド
- 歴史・文化
- 市民合意形成、プロジェクト体制

第1回～第4回の意見のまとめ

資料5

■次世代につなげる持続可能なまちづくり

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
長期的な視点に基づく開発	50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。	委員会 第1回	北山 委員	<p>■トップランナーとして世界のウォーターフロント開発を先行し、国内外に誇れる横浜を作るために、50年後、100年後を想像しながら、未来に負担を残さない持続的な運営が可能な開発を行うべき。</p>
	美しい街、強い街でなければならない。生き残るいわゆる持続が必要。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進める必要。	委員会 第1回	石渡 委員	
	次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。	委員会 第1回	隈 委員	
	現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのときのおかげと言ってもらえるようにしたい。	委員会 第1回	石渡 委員	
	新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。	委員会 第3回	坂倉 委員	
	広大な土地を再開発する際は、40,50年後を考慮に入れながら進める必要があり、短期的な目線で開発を進め、必要な時に改めて再開発をすればよいという考え方は避けるべき。	委員会 第3回	アトキンソン 委員	
	税金を投入しなければ成立しないといプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。	委員会 第4回	内田 委員	
	○持続可能なまちづくり ○将来を見据えたまちづくり	市民意見募集第1回		
	○サステナブルを実現する	意見交換会第2回		
	○世界に誇れるダイナミックな未来像を描いてもらいたい。	市民意見募集委員会第1回後		
	○横浜のまちづくりも人口減少を前提にして考える必要がある。	市民意見募集委員会第2回後		
	○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。 ○市民の目を気にしていたら、代り映えがなく20年後にはさびれて失敗に終わる予感がするので、富裕層にターゲットを絞り長年続く開発にしてほしい。	市民意見募集委員会第3回後		
	○山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来 ○モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい。	市民意見募集委員会第4回後		
○国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。	事業者提案第1回			

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
発展を支えるイノベーション・教育	日本では、対外直接投資というのは非常に低いため、増加させるために、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。	委員会 第1回	今村 委員	■次世代のニーズに応え続けるイノベーション創出や、海外からの直接投資を増加させる観点で、企業・大学の誘致等による教育的役割の付加や世界中の一流人材の確保を目指すとともに、新たな技術等の社会実証の場として活用していくべき。
	経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。	委員会 第1回	内田 委員	
	みなとみらい地区に企業とか大学のイノベーション拠点の立地が進んできてますけれども、点的な存在になっていてネットワーク化・クラスター化されていない。クラスター化していく仕掛け作り、山下ふ頭をプラットフォームにできないか。	委員会 第1回	平尾 委員	
	日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということをしかりと考えていく必要がある。	委員会 第2回	涌井 委員	
	バーチャリアリティーの館ってということで、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。	委員会 第4回	内田 委員	
	段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用させていただきたいと考えています。	委員会 第4回	高橋 委員	
	クルーズの出発点の横浜により、教育的な見地や人生感などが変わる。旅行の世界の起点となる場所では、刹那的な快楽を求めるのではなく、教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。	委員会 第4回	藤木幸 太委員	
	○企業誘致による産学連携 ○実験都市の実現	市民意見募集第 1回		
	○先進的なまちづくり ○先進技術を活用する ○イノベーションの創出 ○研究施設 ○大学 ○学校 ○学習施設 ○教育施設	市民意見募集第 2回		
	○子育て教育（子どものチャレンジ、先端技術の拠点、産学連携拠点、学園都市） ○企業大学研究開発（開発特区、最先端テクノロジー、大学都市、海洋研究、実験都市、産業拠点、最先端技術発信の場）	意見交換会 第1回		
○海に面する特性を生かす ○世界から注目される ○横浜の競争力を高める ○新しい文化が育つ ○人材が育つ ○国際都市としてのイメージがアップする ○世界から人が集まる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○国際交流の拠点になる ○実証実験の場となる ○カーボンニュートラルに取り組む ○DX等を取り入れる ○学術・研究開発機能（実証実験の場にふさわしい・教育や文化への投資は持続性ある取り組み・教育への投資、若者の定着による）	意見交換会 第2回			
○横浜の知的財産を確保するための国際図書館、大学機関の誘致。 ○基礎研究ができる研究開発拠点、技術者・研究者を生み出す教育拠点	市民意見募集委 員会第1回後			

<p>○オープンイノベーションを先導できるグローバル企業を誘致して、ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進、創作の場の共有・オープン化によるイノベーション創出。</p> <p>○内港地区が築いてきたモノづくりのプライドを継承し、市民と協働で次なる「横浜発祥」を生み出すイノベーションキャンパス</p> <p>○神奈川県在または海外の大学や研究室の誘致。美術・デザイン・エネルギー関連などの研究室の誘致。</p> <p>○多面的な社会課題を解決するスマートシティへの取組。 (社会実験やイベントが実施可能なパイロットフィールドとしての開発)</p> <p>○国策へアプローチする社会実証モデル都市としての開発。</p> <p>○供用後も継続して一定エリアを社会実証場所として暫定利用。 (山下ふ頭での社会実証の成果を持続的に都心臨海部のまちづくりで実装)</p> <p>○先進都市としてイノベーションを誘発・発信する3つの次世代型都市基盤(①コミュニティインフラ・②デジタルインフラ・③グリーンインフラ)と文化創造都心・国際交流都心を目指す3つのグローバルハブ機能(エンターテインメント、メディア・芸術、研究・アカデミー)による次世代の街づくり「スマート・グリーンシティ型開発」</p>	<p>事業者提案 第1回</p>	
<p>○街としての賑わい創出や経済発展を図るためには、企業による地域への投資が必須。立地特性を活かした実証実験の場として活用できる環境を整えることで、企業誘致や企業投資が活発となる。</p> <p>○エンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積し、最先端のクリエイティブ環境を整備。</p> <p>○世界のエンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積。</p> <p>○横浜市においても産業ターゲット及び場所を定めた推進を行うことで、制度活用によりインセンティブを得られる企業の誘致とまちの魅力づくりを同時に実現することが可能。</p> <p>○キャンパス型オフィス、グローバル企業、研究機関、大学等</p> <p>○研究施設 海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター</p> <p>○滞在型研修施設(国内外の多様な職種・業種の研修やセミナーを中期間滞在しながら集中して行える施設)</p> <p>○『世界基準の遊び』を学べる環境の創出と次世代型産官学連携の構築、持続性を高める産官学連携の仕組みづくり。</p> <p>○「横浜デザインミュージアム」の創設。世界のデザインミュージアムとのパートナーシップ/NPO法人。日本唯一の市営デザインミュージアムとして国内外へアピールする。</p>	<p>事業者提案 第2回</p>	

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
<p>次世代に渡る市民生活の安定</p>	<p>持続可能であるかどうかということが重要。横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。中長期的な視野、時間軸で再開発の方向性を考えることが必要。</p>	委員会 第1回	内田 委員	<p>■子世代、孫世代のための都市の構想と、税収効果を図る取組や、将来に渡る経済効果の維持を両立させることで、市民生活を支える持続可能な開発を実現するべき。</p>
	<p>現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討するべき。</p>	委員会 第1回	今村 委員	
	<p>再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。</p>	委員会 第1回	石渡 委員	
	<p>都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。</p>	委員会 第2回	北山 委員	
	<p>顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。</p>	委員会 第3回	坂倉 委員	
	<p>横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。</p>	委員会 第4回	高橋 委員	
	<p>○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○滞在時間が増加する ○文化・芸術に触れられる ○多世代が楽しめる・交流できる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい</p>	意見交換会 第2回		
<p>○横浜があらゆる世代にとって魅力的であり続けるために横浜市民の象徴的な場所としての多機能図書館</p>	市民意見募集委員会第1回後			

○新しい事を受け入れ、手をとれる・馴染める風土や街づくりをできる、いま横浜で生まれているハマッ子に未来に任せられるような未来を見据えた議論とスタートが必要。 ○再開発にあたっては、先人の業績に顕著に学び、未来の横浜市民にも誇れる都市づくりをしていきたい。	市民意見募集委員会第2回後
○「国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する」方向性は、短絡的には地域経済にいくらか刺激になっても、市民が誇りとする「横浜らしさ」は壊され、市民生活の豊かさは実感できず、持続不可能な都市に変貌してしまう。	市民意見募集委員会第3回後
○山下ふ頭再開発の目的は、「夢・希望・楽しさを託そう」ということであり、更に分解して、①健全（公序良俗・環境）、②子孫への遺産をしっかり残す、③経済をしっかりすることを具体的な目標とする。 ○社会課題、地域課題を解決する公共サービスの自立。	事業者提案第1回
○日本は少子高齢化、地球温暖化、デジタル社会化、複雑化する国際関係などの対応を通じて政治・社会、経済の中長期にわたるイノベーションが不可欠である。国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。	事業者提案第2回

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
柔軟な開発計画	巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要。一度にすべてを作り上げていく考え方は不適合、そのうえで、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていくうえで、戦略的に誘導することが重要。	委員会第2回	涌井委員	■山下ふ頭全域で統一されたテーマを持った上で、将来の情勢やニーズにも柔軟に即応できるよう、一定規模のオープンスペースを確保するなど、開発余地を残しながら段階的に整備を進めていく計画を立てることも考えられる。
	埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。	委員会第3回	坂倉委員	
	時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。	委員会第4回	内田委員	
	この計画も50年とは申しませんが、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。	委員会第4回	涌井委員	
	○2050年位を目指して、社会情勢に合わせてフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。	市民意見募集委員会第1回後		
	○「段階的」開発となれば、未来世代が手を入れられる余地も残しておく必要がある。 ○広さを活用して20-30年かけて成長させるまちづくり。 ○幾世代にも亘って継続的に手を入れていく「現代版里山」の一角を確保。 ○広域避難場所にもなる緑地を整備し、その後、徐々に、周辺に賑わいを作る施設を、時代のニーズに合わせて建設していく方がよい。	市民意見募集委員会第2回後		
	○「現役世代が将来的な社会保障費の負担増に耐えられるようにする」仕組み作りが一番大切で、独立採算の取れない公園等の施設は将来の若者のことを考えていない。	市民意見募集委員会第3回後		
	○時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい。	市民意見募集委員会第4回後		
○二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発	事業者提案第2回			

■市民合意形成、プロジェクト体制

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
市民のための再開発	経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形でもって活用するという問題意識が、両輪で必要。	委員会 第1回	寺島 委員	<p>■市民が憩い楽しむとともに、自然やコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを求める人々が集う空間を提供するような新たな都市モデルの追求も考えられる。</p> <p>■横浜市がイニシアチブを持って市民のために再開発を行うという視点と、経済成長や財政収支などのファンダメンタルズを両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。</p>
	市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないということも避けるべき。	委員会 第1回	幸田 委員	
	横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。	委員会 第4回	高橋 委員	
	横浜市民の為に計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。	委員会 第1回	幸田 委員	
	定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。	委員会 第2回	北山 委員	
	経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。	委員会 第3回	北山 委員	
	○市民も楽しめるまちづくり ○市民への還元 ○税収の確保	市民意見募集第1回		
	○市民が利用できる、憩える、学べる ○市民の役に立つ ○市民も楽しめる ○公共施設 ○居住施設	市民意見募集第2回		
	○子育て教育（生涯学習の場、子どものチャレンジ、子供が楽しむ場） ○市民のための再開発（スポーツ施設、滞在施設、庭・岡・公園、散歩、サイクリング）	意見交換会 第1回		
	<p>○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める</p> <p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○海に面する特性を生かす</p> <p>○歴史文化を尊重する ○世界から人が集まる ○先進的なまちである</p> <p>○開放的な憩いの場づくり ○ステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる</p> <p>○文化を活用する・発信する ○居住できる ○世界から注目される</p> <p>○人材が育つ ○歴史資産を残す ○防災機能を備える ○次世代につなげる</p> <p>○横浜らしさが感じられる ○教育・知的探求の場 ○市全体の活性化に寄与する</p> <p>○横浜の魅力をアップする ○市民が楽しめる・利用できる</p> <p>○横浜に住みたくなる・住み続けたいくなる ○多世代が楽しめる・交流できる</p> <p>○身近な市民生活を豊かにする</p>	意見交換会 第2回		
	<p>○市民の山下ふ頭の利用を視野に入れることが肝要。</p> <p>○再開発にあたっては公共性のない事業に多額の補助金が入らないようにしてもらいたい。</p> <p>○横浜の歴史、市民主体のまちづくりに帰るべき。</p> <p>○事業性や収益性に捉われるのではなく、横浜市民にとって快適なまちづくりを目指すべき。</p> <p>○市民が幸せな生活を営んでゆくために、夢や希望を抱きながらものを考えるスペースを作っていくことの重要性。</p>	市民意見募集委員会第1回後		
	<p>○大型の天体望遠鏡の活用。サッカー場、テニス場、卓球、バドミントン、バスケット等、スポーツ場</p> <p>○将来の横浜市民を増やすために、子供専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設などの子供たちが繰り返し来たいと思わせる施設</p> <p>○収容能力を超える観光客は地元を疲弊させ、先人の遺産を食い潰しうる。まず市民にとって魅力的な施設を開発し、その良さが知られてからインバウンドを増やすべき。</p> <p>○山下ふ頭再開発はインバウンドのためにではなく横浜市民のために行うべき。</p> <p>○空き地を放置せず、定期的貸出ができることよさそう。</p> <p>○投資やインバウンドの為に都市があるわけではなく、都市には人が住んでいる、住民のプライドのある魅力的な都市ならば観光客はやって来る。</p>	市民意見募集委員会第2回後		

<ul style="list-style-type: none"> ○海辺として市民生活を取り込んだ土地利用をすべき。 ○市民の落ち着いた憩いの場所としての役割 ○すでに国際都市としての役割は果たしているので、地元民が満足できる空間が良い。 ○市民の共有地として文化創造・憩い・生活・防災の場所として利活用すべき。 	市民意見募集委員会第3回後
<ul style="list-style-type: none"> ○行政は経営ではないこと、経済合理性だけを追求したら市民の共有財産は搾取されて市民が不幸になることを肝に銘じてほしい。 ○山下ふ頭の再開発は経済合理性よりも市民の共有財産としての認識を優先すべき。 ○参画、協働、創造という一連の営みから生まれる心の充足こそが市民の幸福には不可欠、山下ふ頭の一角に市民の共有地として現代版「里山・里海」たる「入会地」を作る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○実際の着工までの複数年間、山下ふ頭を放置しておくのはもったいないので、年単位の暫定利用を募集して、早期の活性化につなげることも必要。 	

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
横浜市全体のプロジェクト体制	市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。	委員会第3回	今村委員	■市の関係部局が横断的に連携して中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発とするべき。
	横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。	委員会第3回	今村委員	
	山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。	委員会第3回	北山委員	
	検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えます。	委員会第4回	高橋委員	
	○再開発にあたっては、横浜市全体のまちづくりをどうするかは重要な論点。 ○各局の課題解決または創造的なプランを創出するため、若いスタッフを集めた組織横断的なチームを作る。 ○「人間中心の都市」・「持続可能な環境」などを理念として掲げる「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」を参照すべき。	市民意見募集委員会第1回後		
	○市長直属の全市庁横断的な総合調整部署が設けられてしかるべき。 ○横浜市全域に関わる広域戦略が求められるのであるから、市庁横断的な、調整的な組織が本答申の受け皿として相応しい。	市民意見募集委員会第2回後		
	○この計画を横浜市各局横断する一大プロジェクトにする提案を検討してほしい。 ○再開発は横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべき。	市民意見募集委員会第3回後		
	○「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価。	市民意見募集委員会第4回後		

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
答申策定後に経るべきプロセス	住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとすることは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけでなく、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してはどうか。	委員会 第1回	幸田 委員	<p>■答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を実施するプロセスを経ることが適当であり、加えて、市民参画の在り方や、開発に対する市民意見の伝達手法等についても考慮する必要がある。</p> <p>■山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、横浜港あるいは市域全体のランドデザインとの関係性を常に意識し、事業のあるべき姿について十分な議論・審議を行っていく必要がある。</p>
	山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけではなく、メンテナンスと方向付けの議論における、市民が負うべき責任があることを明確にする必要。	委員会 第1回	寺島 委員	
	市民からの意見の中に「参画」があります。市民が参画できるようなものを意図することがすごく問われていると思う。	委員会 第2回	寺島 委員	
	横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインを改めて議論する必要。	委員会 第3回	藤木幸 太委員	
	山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどの情報をしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。	委員会 第4回	幸田 委員	
	横浜市の資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。	委員会 第4回	幸田 委員	
	事業計画の検討委員会には市民・学識経験者、横浜市の職員も入っていただいて検討するということが1つ、この委員会に入らない市民の意見あるいは有識者、地域関係団体等もその委員会に意見を出せる。事業に応募する事業者は検討委員会を毎回傍聴。そして公聴会を市長によって開催を義務付ける。市民からも開催要求が出せる。委員会に対して議会は意見を言え、その後の議会審議にも円滑に進めることができる。	委員会 第4回	幸田 委員	
	市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。	委員会 第4回	涌井 委員	
	安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させた開発としてほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なのは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。	委員会 第4回	高橋 委員	
	<p>○東京湾全体の視点で山下ふ頭の位置付けを明らかに。事業体のあり方も議論提言すべき。</p> <p>○民主的決定プロセスも議論提言すべき。重要項目の一つとして「市民参画」。</p> <p>○まちづくりに市民が主体的に参画することで地域主権主義に通じる市民自治を進める。</p> <p>○様々なテーマで自主的に活動し、まちづくりや市民生活の課題解決に実践的に携わっている市民グループの声こそ「新しいまちづくり」に必要。</p> <p>○若い人の感性を取り込むことが不可欠、また、市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中してもらいたい。この計画に市民がどう関与するのか期待。</p> <p>○長期的に1000回の市民ミーティングを行う「1000ミーティング」を提案。</p>	市民意見募集委員会第1回後		
<p>○庁内横断的な組織体制で各局に備蓄された資源を集約して、さらに市民や事業者が参加する部局を創設する。山下ふ頭をどうするかは住民投票で決めるべき。</p> <p>○市民が主導する市民会議、区民会議を開催するなど長期的な計画が必要。</p> <p>○大阪万博の工事の遅れなどを考慮すると、供用化の期限を決めて開発を急ぐべきではない。</p> <p>○実際に供用開始する頃のメインの使い手世代の意見を取り入れる。そういった世代で未来を語る場があってもいい。</p>	市民意見募集委員会第2回後			

<p>○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。</p> <p>○「市民参加」は「人民による」が実現してはじめてその意味が生きてくる。</p> <p>○いままでの大規模開発は地元の意向の反映や参加が難しく、大手企業主導で進められて疑問が残るようなプロジェクトがあったが、山下ふ頭再開発事業は市民がつくる再開発計画なので、「MORE YOKOHAMA ALL YOKOHAMA」な計画である。</p> <p>○運営を市民一体となっていけると、さらに価値のあるものになる。</p> <p>○横浜市ファクトシート住民意識について触れるべきであり、市の住民意識の捉え方は市民参画のあり方に影響すると思う。</p> <p>○行政は経営とは違うし、今どき経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なので、もっと広範な層の地域関係団体と呼ぶのが「市民参画」の第一歩である。</p> <p>○横浜市のランドデザインを新たに制作するために、横浜市全域での各地域の都市機能の再構築と山下埠頭の位置付けの再設定と用途地域の見直しが必要との提言は理に適ったもの。</p> <p>○市はひとたび方針が決まれば、それを変えずにその通りに進めていくので、方針が決まる前に市民に選ばせるべき。</p>	<p>市民意見募集委員会第3回後</p>
<p>○現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき。</p> <p>○多様な意見を持つ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題。</p> <p>○市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めること。横浜市の今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待。</p> <p>○市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるため、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしい。</p> <p>○開発事業者実際に議論に参加させる・計画をプレゼンさせるなどがよい応募条件となる。</p>	<p>市民意見募集委員会第4回後</p>
<p>○民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。</p> <p>○市民参加型共創活動を通じてコミュニティを醸成。</p> <p>○開発手法提案として、「市民の意見を広く遍く聴き、提案されたアイデアを集約」、「山下ふ頭のあるべき姿」を構築すべきと提言しており、そこには当然に「多様性社会」の実現。</p>	<p>事業者提案 第1回</p>

■観光・インバウンド

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
観光・インバウンドの必要性	ダイナミズムで引きつける力です、外から。要するにインバウンドも含めて、人だけじゃなくて投資も含めて、横浜がすごいこと始めたなと思うような、外からの引きつける関心、それから人流、投資、あらゆる面で引きつける力がどこまで持っていけるのか、そういう中で議論を深めていかなきゃいけない。	委員会第1回	寺島委員	■既存の観光資源の活性化も含めた経済成長に向けて、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込む取組を行い、海外からの関心、人流、投資等を引きつける必要がある。
	経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。	委員会第1回	内田委員	
	人口減少においては、観光客の減少の補填として、外国人に来ていただくことで稼働率を高めていくことが、インバウンド戦略として行われてきている。	委員会第3回	アトキンソン委員	
	○観光 ○非日常 ○観光の充実	市民意見募集第1回		
	○国際的な観光地になる ○世界から人が集まる ○世界に発信する	市民意見募集第2回		
	○市民が楽しめる・利用できる ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される ○横浜の魅力をアップする ○観光資源を作る ○市の収益の向上	意見交換会第2回		

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
観光資源の事業性確保	観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。	委員会第3回	■観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。	
	インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。インバウンドに向けて区別する必要はない。	委員会第3回		
	今までの観光施設は経済合理性を軽視してきた。これからは経済合理性をさらに求める必要がある。市の財政に悪影響を与えることだけは避けるべき。	委員会第3回		アトキンソン委員

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
インバウンドのニーズを捉えたコンテンツの提供	デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることからデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。	委員会 第1回	内田 委員	<p>■インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、例えば外国人が憧れるポップカルチャーやデジタルコンテンツを盛り込むなど、その価値を形にしていくべき。</p> <p>■ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等、今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。</p>
	経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、そのうえで、外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。	委員会 第1回	内田 委員	
	歴史・文化を中心とした施設では多様性がなく、魅力が少ない。都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、インフラ投資と整備を進め、多様なアピールをすることで、結果として7年間で外国人観光客を4倍に増加させた。	委員会 第3回	アトキンソン 委員	
	インバウンドはやはり、観光の強い味方であり、都市競争の中で勝っていくには必要だが、今は、日本に来るインバウンドが、目的地が横浜になっていない。逆転していくためには、世界的に見ても、日本文化に対する好感度というのは非常に高いことから、我々が再評価して、日本の文化の価値というものを認めていき形にしていくことや、世界基準、老若男女ダイバーシティすべてを受け入れる寛容性が必要。	委員会 第4回	内田 委員	
	世界中からのインバウンドを取り込める街になることが必須。海外の若い世代中心にですね、日本の魅力を示す代名詞ポップカルチャー。漫画・アニメ・ゲームはもう世界中に熱心な愛好者がいて、やっぱそこは日本がとてもレベルが高い、この強みをやはり生かしていくために、日本のポップカルチャーの集積地にしたらどうか。	委員会 第4回	内田 委員	
	このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションとなるよう取り組むべき。	委員会 第4回	高橋 委員	
	○スタジアム等のスポーツ機能 ○コンベンション機能 ○クルーズ船受入機能 ○食・美容 ○健康・リラクゼーション機能	市民意見募集 第1回		
	○独自性がある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等） ○ショッピング機能 ○マーケット ○飲食店 ○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○リゾート施設 ○コンベンション施設 ○展示場 ○居住施設	市民意見募集 第2回		
	○海に面する特性を生かす ○防災機能を備える ○次世代につなげる ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○居住できる ○新しい文化が育つ ○船が停泊する ○交通利便性の向上 ○シンボルがある ○ナイトタイムの活性化 ○横浜ブランドを創る・高める	意見交換会 第2回		
	○ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク ○横浜や神奈川の特産品や海鮮市場などが販売できる横浜観光マーケット	市民意見募集 委員会第1回後		
○鹿鳴館時代の衣装で町ブラができ、写真映えするスポットがあると良い。 ○地球環境保護推進や観光客を誘致するための海洋哺乳類を中心とした水族館 ○これからの子供たちと世界のファンのために多様な刺激を与えるためにも山下ふ頭にアニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設	市民意見募集委 員会第2回後			

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
近隣の観光資源との連携	地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。	委員会第3回	アトキンソン委員	■観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。
	都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。	委員会第3回	坂倉委員	
	○観光のハブになる	市民意見募集第2回		
	○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○市全体の活性化に寄与する	意見交換会第2回		
	○山下ふ頭を含むインナーハーバーは観光地であるとともにビジネス街、住宅街でもあるという観点が必要。	市民意見募集委員会第3回後		

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
宿泊に繋がる魅力創出	観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。	委員会第3回	アトキンソン委員	■経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。
	常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えると、付加価値の高さを重視することが重要。	委員会第3回	アトキンソン委員	
	日帰りの観光客、安い観光客というものになってしまっている。横浜やここで、世界の超富裕層にも支持されることも挑戦していかなければいけない。	委員会第4回	内田委員	
	観光の中期目標は2030年に5,000億円を目標。現在は観光客の9割が日帰りさらに日帰り観光客だけが増えていくと、オーバーツーリズムなるし、単価が安い。やはり客単価を上げていく、そして宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。	委員会第4回	内田委員	
	クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。	委員会第4回	藤木幸太委員	
	○ホテル等の滞在機能	市民意見募集第1回		
	○滞在ができる ○ホテル	市民意見募集第2回		
	○滞在時間が増加する	意見交換会第2回		
	○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店、遠方の方のためにホテル設置。	市民意見募集委員会第2回後		
	○ホテルを誘致。 ○現在「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。	市民意見募集委員会第3回後		

■横浜の魅力、ブランド力の向上

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
横浜の魅力・ブランド力向上	ダイナミズムで引きつける力、国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。	委員会第1回	寺島委員	<p>■古きを尊重し、新しいものを添えていく、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。</p> <p>■地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。</p> <p>■横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。</p> <p>■国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応じていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。</p>
	横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討するべき。具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。	委員会第1回	平尾委員	
	山下ふ頭という重要な都心臨海部のランドマークになる、横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。	委員会第1回	内田委員	
	山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。	委員会第2回	北山委員	
	横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。	委員会第2回	涌井委員	
	既往の概念に無い柔軟で有機的な空間を創出するうえで、世界の状況、日本の若者が重視するものを押さえることが重要であるとともに、古きものを尊重しながら、新しいものを添えていくことで、横浜ブランドを、再度磨きあげるという作業に取り組むことは、山下ふ頭の再開発の性格や構造というものと非常に密接不可分。国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応えられる土地利用を考えた時に、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどうやって創出するか。	委員会第2回	涌井委員	
	ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという雇用の確保にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。	委員会第2回	村木委員	
	開発には、複数の目的と価値を追求していくことが重要。開発の目的の組合せを考えつつ、地域を変えて、そして価値をどうやって導入していくのかということが大事。	委員会第2回	村木委員	
	低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンがオリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。	委員会第2回	涌井委員	
	横浜は東京都心のコピーである必要もなく、サブ的な存在ではない。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要で、そのうえで東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が色々な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。また、横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。	委員会第3回	今村委員	
	横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、もう鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与する、ということも考えられる。	委員会第3回	藤木幸太委員	
	横浜市は、画一的な都市ではなくて、モザイク状のいろんな興味のある面白い街ができてきている。横浜らしさを壊さないように、各地で見られるガラスのカーテンウォールのビルを建設する開発は避ける必要がある。	委員会第3回	北山委員	
	インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的で国内外にとって魅力的な施設である。インバウンドに向けてと区別する必要はない。	委員会第3回	アトキンソン委員	
○横浜の歴史を活かす、伝える、感じる	市民意見募集第2回			
○シンボリックな空間の創造（ブランド力、横浜らしさ） ○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ）	意見交換会第1回			

<p>○横浜ブランドを創る・高める ○横浜のアイデンティティ</p> <p>○横浜らしさが感じられる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい</p> <p>○横浜の魅力をアップする ○シンボルがある ○世界から注目される</p> <p>○国際都市としてのイメージがアップする</p> <p>○学術・研究開発機能による世界的な知名度・ブランド価値の向上</p>	意見交換会 第2回
<p>○山下ふ頭の方向性を議論するうえではこれまでの横浜市都市づくりの経験に学び、活かすことが大事であり、そこから離れた上から目線、外部から持ち込む議論、短絡的な経済一辺倒の議論では、市民の共感と支持は得られない。</p> <p>○ヨコハマブランドの確立。(リブランディング)</p>	市民意見募集委員会第2回後
<p>○この場所の再開発は今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。</p> <p>○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。</p> <p>○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。</p> <p>○横浜にしかない歴史的景観と財産を際立たせ、100年後も世界に誇れる都市デザインを実現することが横浜市民として訴えたいこと。</p> <p>○他にないものをつくる、広く横浜としてみたときに足りないものをつくる。</p> <p>○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。</p>	市民意見募集委員会第3回後
<p>○この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき。</p> <p>○市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる。</p>	市民意見募集委員会第4回後
<p>○山下公園地区と連携した新たな横浜のシンボルかつ収益源となるよう利活用策を早期に検討。</p>	事業者提案 第1回

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
新しい時代の象徴となるウォーターフロント開発	次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。	委員会 第1回	隈 委員	<p>■未来を担う若者のために、先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技や伝統等、継承すべきものを混在させた拠点形成を進めるべき。</p> <p>■グローバルで新しい社会に合致し、世界のウォーターフロント開発を先行するような臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。</p>
	横浜の誇りとか、歴史、景観とか集客の問題、それから事業採算の問題、就労の問題、税収の問題など、色々あると思います。先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。	委員会 第1回	石渡 委員	
	再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。	委員会 第1回	石渡 委員	
	工場移転等生産の拠点の移転により、広大な土地が空き地になる状況が京浜工業地帯全体に起こりうる可能性が高い中で、港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、これからの臨海部再開発のモデルという自負を持って取り組むということが非常に重要。	委員会 第2回	涌井 委員	
	グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。	委員会 第3回	藤木幸 太委員	
	○山下埠頭の再開発が日本の未来を切り開くプロジェクトになるよう、最高のプランを提示してもらいたい。 ○日本でここ独自というものを用意していただきたい。斬新で革新的なアイデアに期待。	市民意見募集委員会第1回後		
	○「これまで培われた歴史・文化」、「新たなテクノロジーやサステナビリティ」、「多様な人々と価値観」を融合してイノベーションを起こし続け、今後の内港地区や横浜全体を牽引する場所。	事業者提案 第1回		

■周辺地域への波及

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
地元経済への貢献と雇用創出	地域への経済効果については、雇用の面をはじめとして、可能な限り経済効果が域外に流出しないで、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。	委員会 第1回	幸田 委員	<p>■新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。</p> <p>■再開発を契機とし、周辺地域で働く方々の収益向上や、消費・雇用の創出を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。</p> <p>■新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。</p>
	横浜市だけの財政ではかなり困難ですから、民間とか東京とか、いろんな人がそこに投資を促すような、そういうような発信力も必要じゃないか。	委員会 第1回	今村 委員	
	再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。	委員会 第1回	石渡 委員	
	ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなくて、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。	委員会 第2回	村木 委員	
	低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンが、オリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。	委員会 第2回	涌井 委員	
	人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることで、必要なことを最大の焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。	委員会 第3回	アトキンソン 委員	
	横浜の独自性を発揮しつつも、経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていく必要がある。	委員会 第3回	石渡 委員	
	新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。	委員会 第3回	坂倉 委員	
	横浜市地元経済に経済波及効果を大いにもたらす。直接再開発に参加する企業や団体、または山下エリアだけではなく横浜全体、もっと言うと日本経済にプラスになる優れた場所として開発されるべき。	委員会 第4回	内田 委員	
	税収のプラスになるっていう話で、横浜市の一部の税収源がここに移るのは何の意味もない。事業化をしていくにあたって、横浜市にとって追加的な需要を生み出すだけでなく、市全体としてプラスなるかという観点も取り入れるべき。	委員会 第4回	アトキンソン 委員	
	このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。	委員会 第4回	高橋 委員	
	大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要だ。	委員会 第4回	高橋 委員	
	港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。	委員会 第4回	涌井 委員	
	○企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべき。	市民意見募集 委員会第1回後		
○昼間人口・夜間人口のバランスを取ってほしい。	市民意見募集 委員会第2回後			
○平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる。	市民意見募集 委員会第4回後			
○創出されるビジネスや技術のまちづくりへの還元。	事業者提案 第1回			
○環境やコミュニティづくりを優先したまちづくりを行うべき。それにより賑わいや経済の活性化が続く。	事業者提案 第2回			

■国内外から人が集まる

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
人々を惹きつける開発の実現	ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。	委員会第1回	寺島委員	<p>■山下ふ頭が国内外からの関心、人流、投資等を引きつける力を醸成するために、プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーが必要。</p> <p>■東京湾全体の港や空港の機能を踏まえ、人流の動向を意識することが必要。</p> <p>■顧客のニーズが変わっていく中で、時代遅れとならないために、投資をし続ける覚悟が必要。</p>
	地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。	委員会第3回	今村委員	
	東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が必要な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。	委員会第3回	今村委員	
	時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。	委員会第4回	内田委員	
	○賑わいがある ○わくわくする体験ができる ○国際交流を深める ○世界から人が集まる ○世界に発信する	市民意見募集第2回		
	○横浜のアイデンティティ ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○シンボルがある ○横浜ブランドを創る・高める ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される	意見交換会第2回		
	○IKEAやコストコのような大型店舗を受け入れれば、地元民にも観光客にも良い。 ○商業施設、劇場、野球場、韓国の美味しいお店を誘致。	市民意見募集委員会第3回後		
	○夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設	市民意見募集委員会第4回後		
○日本の日常は他の国から見ると非日常であり、そのライフスタイルがエンターテイメントになる。感動を世界に向けて横浜から発信する。 ○様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。 ○世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。 ○人と文化が交流し、物やサービス、知が行き交い、価値が生まれる場	事業者提案第2回			

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
独自の魅力構築	東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。	委員会第3回	今村委員	<p>■周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発により、独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。</p>
	都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。	委員会第3回	坂倉委員	
	○国際色豊かである	市民意見募集第2回		
	○世界に誇れるシンボリックな空間の創造	意見交換会第1回		

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
大規模集客施設の導入等による活性化	横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。	委員会 第3回	今村 委員	■横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。
	このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。	委員会 第4回	高橋 委員	
	○賑わい・楽しさ ○エンターテインメント機能 ○スタジアム等のスポーツ機能 ○楽しさ ○コンベンション機能	市民意見募集 第1回		
	○賑わいがある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等）○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○コンベンション施設 ○展示場	市民意見募集 第2回		
	○スポーツ（多機能スタジアム、ドーム、マリンスポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツの拠点） ○エンターテインメント（音楽フェス、野外フェス、コンサート、花火大会、サバイバルの体験学習、スマートシティ・歴史・世界に誇れるテーマパーク）	意見交換会 第1回		
	○市の収益の向上 ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○大規模集客機能（国内外から人を集められる・事業収益が見込める・海に囲まれた立地特性（景観形成、騒音対策等）を活かしたい・プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい）	意見交換会 第2回		
	○横浜スタジアムが狭いので、大きなスタジアム（野球場） ○子供たちにプロサッカーを近くで見せてあげられるサッカー専用スタジアム ○ポケモンなど日本の漫画・アニメ文化を発信するテーマパーク ○横浜にインバウンドを招致するため、ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク	市民意見募集 委員会第1回後		
	○みなとみらい側バックに屋外ライブステージ会場 ○地球環境保護推進や観光客を誘致するための海洋哺乳類を中心とした水族館	市民意見募集 委員会第2回後		
	○横浜Fマリノスがあるにも関わらず、それに見合った設備がないのは恥ずかしい状況なので、サッカー専用スタジアムの整備が必要。 ○「国際交流都市を先行した160年の歴史」を持つ横浜の「独自の立ち位置」を活そうとの提言、また「スポーツとフード」の名所作りの一案は傾聴に値する。 ○市民と観光客に楽しんでもらう・市職員にやりがいのある仕事を提供する場として水族館と温室 ○ドローンで中央卸売市場から食材を運び、横浜と全国の料理人たちが自慢の安価な料理を提供できる場として食の博物館 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場 ○物流通路や都市防災機能を作るなど地下を活用しつつ、民族博物館をリアルな都市のように作る歴史のワンダーランド	市民意見募集 委員会第3回後		
	○海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館	市民意見募集 委員会第4回後		
	○運動・健康施設、生態館 ○山内ふ頭で実現できない場合、「食」で賑わい創出するために、地産地消商店街・飲食店街、山下ふ頭に市内漁港の漁船をつけてその場での水揚げや、通常は洋上廃棄してしまう未利用魚の販売、食のカルチャースクール（食の学校）の創設などを実施し「食」で賑わい創出。 ○世界中のヒト・モノの集中点、活動の拠点に再生される。 ○創作の場の共有・オープン化による集客。 ○臨海部の先進事例、新しい貿易形態を意識した展示会・見本市の開催。	事業者提案 第1回		

○音楽、劇場、ホール、会館

○海上コンサート会場の設営。大型イベントスペース・・・コンサートホール（海上含め3か所）として中央の埠頭を活用する。街角でのコンサート。

○マルチアリーナ-国内外のアーティストによるライブ・コンサートやスポーツイベントなどさまざまなエンターテインメントが提供できるふ頭を中心施設

○ダンススタジオ・ミュージックスタジオ・クッキングスタジオに加えて、イノベーションスタジオ・ユーチューブスタジオ・e-sportsスタジオ

○グローバルスタンダードの国際展示場、コンサート・スポーツイベント・国際会議等の会場となる多目的ホールなどを整備する。これにより、パシフィコ横浜と相俟って山下ふ頭を核としたインナーハーバーに、国内のみならず世界中から多くの人々が集い、賑わい、それに伴い貿易・物流が活性化し、横浜市の経済の好循環を生み出す。

○文化芸術施設：メディア芸術（デジタルアート）、グローバル拠点施設

○研究施設：海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター

○エンターテインメント施設：海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、フードマーケット。日本のエンターテインメントのメインステージ。

○文化、コンベンションとエンターテインメント機能の拠点が横浜港周囲の既存施設と共生し配置される。

○世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。

○複合集客施設：ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設、賑わい施設、商業、飲食等

○コンサート・イベント会場、その他施設：F1

○マルチアリーナ：スポーツ、コンサート、コンベンション等

○スポーツ拠点、エンターテインメント・コンベンション機能

○ふ頭の来街者を迎え入れる広場。マルチアリーナや商業施設との一体利用やイベント広場としての利用。

○ワールドカップの開催（スポーツ（インドア）/食のワールドカップ（和食など））

○アリーナ・半屋外ステージ、美術館、商業施設等

○全身で宇宙旅行を疑似体験

○宇宙をテーマとしたNASAの名前を冠したテーマパーク、子供から大人まで楽しめるアミューズメント施設

○世界の学者やビジネスパーソンの利用を想定した、国際会議や政府系会合に対応するコンベンションホールや会議室を整備。

○MICE施設-国際会議や展示会等の場として日本を代表する確たる地位を築く。

○MICE（国際会議）の開催誘致、国際会議対応ブースを大中3ヶ所持つ。徒歩10分以内にホテルを用意。

○国際社会とのリアルな人的交流、実物を介した情報交流の場となる国際見本市や国際会議というMICEが、新産業育成などのビジネス創出、日本や横浜のブランド力強化といったイノベーションの最重要ツールとなる。

事業者提案
第2回

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
インクルーシブな空間づくり	横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。	委員会 第3回	今村 委員	■横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、誰もが自由に楽しめ、賑わいが創出されるような、インクルーシブな空間を整えることが必要。
	憩いの場としては、市民が自由に使える楽しめ、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	賑いを創出し、人々に喜びや楽しみ、感動や癒しを提供する場であること、ということですね。あとは、新しい街を創造すると。人々のウェルビーイングに貢献する場所であるところ、まず1つあると思っております。	委員会 第4回	内田 委員	
	○国際性 ○交流・出会い ○超高齢社会 ○多様性社会	市民意見募集第 1回		
	○幅広い世代が楽しめる ○特定の世代が楽しめる ○気軽に利用できる ○誰でも楽しめる ○交流ができる	市民意見募集第 2回		
	○多世代が楽しめる・交流できる ○異文化・多文化にふれる ○誰もが利用できる	意見交換会 第2回		
	○世界約200か国の若者たちが集まり、学び、交わる	事業者提案 第2回		

■横浜経済を牽引

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
地域経済の活性化	横浜市GDPや、財政は厳しくなっていく中で、重要な都心臨海部のランドマークになり、横浜経済をいかに生み出し、動かすとともに、市民の生活を維持していくために、どのような場所にしていくのか。	委員会第1回	内田委員	<p>■定住人口が減少する時代において、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。</p> <p>■横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。</p> <p>■横浜市民に憩いの場を提供する取組と、横浜経済を活性化させる視点を両立させ、市民のより豊かな生活に繋がる場所とするべき。</p>
	地域の定住人口減少化において、これらの都市開発はビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。都市開発の資金は人口減で税収が減少しますので、自治体財政の負担を軽減し、法人税などで税収増を補っていくような新たな仕組みづくりが必要。	委員会第3回	今村委員	
	都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。	委員会第3回	坂倉委員	
	山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討する必要。	委員会第4回	高橋委員	
	日本を代表する都市として、発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。	委員会第4回	高橋委員	
	横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。	委員会第3回	藤木幸夫委員	
	横浜の成長を牽引し、横浜市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。	委員会第4回	高橋委員	
	○市全体の活性化に寄与する ○横浜の競争力を高める	意見交換会第2回		
○インナーハーバー域とアウターハーバー域の結節点にある山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では人で賑わい、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれ、世界一魅力的、豊かで幸せな都市となる。	事業者提案第1回			

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
市の収益向上と市民への還元	生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には「税収を生み出す場所」としての観点が必要不可欠。	委員会第4回	高橋委員	<p>■市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。</p>
	○市民への還元 ○税収の確保	市民意見募集第1回		
	○財源税収収益（財源の制約・財政的課題も考慮、稼げる場、観光や企業誘致）	意見交換会第1回		
	○市の収益の向上	意見交換会第2回		
	○新しい事業が継続性を持つためには、事業収支計画を練ることは必須。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益確保を優先して欲しい。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益が最大化できる事業者が良い。 ○「横浜経済の活力のけん引が不可欠」といったが、経済だけでなく、もっと自由な発想で横浜のことを考えてもらいたい。 ○「横浜経済のけん引」という言葉の使用は選択肢の限定になるので、避けるべき。	市民意見募集委員会第3回後		

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
我が国の貿易との関係性	強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を生かしつつ、効率的に意味のある活用方法を検討する必要、その際に、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたらしめるための場所として活用する発想を持つことも有効。	委員会第1回	河野委員	<p>■東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。</p>
	横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視してほしい。	委員会第3回	藤木幸夫委員	
	再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。	委員会第4回	幸田委員	

■防災・安全

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
市民の安全安心	3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。	委員会第1回	寺島委員	■世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき。
	横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。	委員会第1回	平尾委員	
	世代を超えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。	委員会第2回	寺島委員	
	防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。	委員会第3回	坂倉委員	
	全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことは、防災の対応のためにも実は大変重要。	委員会第4回	涌井委員	
	横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。	委員会第4回	高橋委員	
	○医療、防災施設	市民意見募集第1回		
	○安全・安心なまちづくり ○医療・福祉施設、防災施設	市民意見募集第2回		
	○防災の体験学習によるエンターテインメント	意見交換会第1回		
	○防災機能を備える	意見交換会第2回		
	○横浜市は首都直下地震に向けた震災対応が不十分である。	市民意見募集委員会第1回後		
	○横浜の火災対応、震災対応等の安全問題についての検証が必要。 ○「ピースメッセンジャー都市」として相応しい被災の記録を語り継ぐ「命の大切さ祈念館」	市民意見募集委員会第2回後		
	○過去の大震災の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。 ○市民370万の生活・暮らしを守る防災拠点	市民意見募集委員会第3回後		
	○ビッグデータ・センシングによる人流シミュレーション、避難シミュレーションの実装 ○ホテル・滞在（若者のみ）施設・教育・ショッピング・行政・医療等日常利用施設	事業者提案第1回		
○大地震や津波から守る最先端の防災対策	事業者提案第2回			

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
リダン ダン シー性 の 高い まちづ くりへ の 貢献	横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。	委員会 第1回	平尾 委員	■旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。
	首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。	委員会 第2回	涌井 委員	
	関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	○非常時には防災施設になる大規模集客機能	意見交換会 第2回		
	○全天候型の運動場や災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ヘリポートなどの災害発生時に使える施設	市民意見募集委 員会第2回後		
	○人工地盤構築によるBCP対策（域外への避難動線や緊急物資輸送用道路の整備） ○津波浸水レベルを想定した施設配置。 ○エネルギー拠点や下水処理場等の整備による有事や災害時でも自立した拠点の形成。 ○津波などの災害時に、避難場所となる防災センター機能を持つ医療防災拠点の誘致。 ○TP3. 7m以上の人工地盤整備。 ○津波高さを想定したエリア内環状道路の整備。 ○5万人想定 of 防災拠点広場、淡水化装置、防災トイレなど防災機能の整備。 ○医療防災拠点	事業者提案 第1回		

■交通ネットワーク

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
陸海からの交通アクセスの向上	旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。	委員会 第3回	坂倉 委員	<p>■山下ふ頭への新たな進入路の確保や臨港幹線道路の整備等により、来街者の利便性向上を図るとともに、客船誘致に向けた整備を更に推進していくべき。</p> <p>■市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。</p>
	現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただくと都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルとして、うまく回遊性が取れるような道路になる。	委員会 第4回	坂倉 委員	
	交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。	委員会 第4回	幸田 委員	
	○クルーズ船受入機能	市民意見募集第 1回		
	○船が停泊する ○客船受入施設 ○道路 ○駐車場	市民意見募集第 2回		
	○交通（交通ターミナルによる地区内循環・交通網の充実、水中道路）	意見交換会 第1回		
	○船が停泊する ○羽田からのアクセスが良い ○交通機能（陸・海・空、海外からもアクセスしやすい・回遊性を生み、にぎわいを創造する、街の眺望、海の眺望を活かせる・海の玄関口として象徴的な役割を果たす）	意見交換会 第2回		
	○高速道路ではベイブリッジ経由でより羽田に近いことを活用してほしい。	市民意見募集委 員会第2回後		
○山下ふ頭で集客が増えて渋滞が起きると、新山下以降の地元住民が困るので、本牧までみなとみらい線を延伸するなど渋滞回避を考えてほしい。 ○山下ふ頭は周辺施設のつながりを考えて、港町ヨコハマとして最適地であるので、海岸通りを海沿いに作る、船着き場を作って船で直接お店にアクセスできるようにする。 ○駐車場をたくさん用意する。 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場	市民意見募集委 員会第3回後			
○山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要。 ○交通アクセスを考えるにあたり、道路とともに大量輸送手段の確保は必須。 ○緑が多く、港としての機能として「海へのアクセス」を誰もが活用できるインフラの整備。 ○より多くの船舶を内港地区に呼び込むために、ベイブリッジを廃止・解体し、その代わりとして山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路	市民意見募集委 員会第4回後			
○横浜内港の各地区が歩行者ネットワークでつながり、それぞれの機能で連携し、魅力的な臨海部を形成。 ○客船ターミナル	事業者提案 第1回			
○客船ターミナル	事業者提案 第2回			

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
多彩な交通手段	山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。	委員会 第1回	平尾 委員	■三方を海で囲われた立地条件を最大限生かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
	水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要であると考えていたうえ、防災の観点で海上交通がかなり重要な役割を果たすと考えられた。	委員会 第2回	北山 委員	
	周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	■ロープウェイ、空飛ぶ車を含めた多彩な未来の交通手段、元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区との回遊性を高めるモビリティ等の導入も目指すべき。
	○交通の充実	市民意見募集第 1回		
	○電車・バス ○水上交通 ○ロープウェイ ○地区内交通	市民意見募集第 2回		
	○交通（空中交通、モノレール、市電、水上交通（船））	意見交換会 第1回		
	○交通利便性の向上 ○先進的で多彩な交通を実現する交通機能	意見交換会 第2回		
	○シーバス、シータクシー場、各種イベント船のりば、バス停、タクシーのりば、水上交通は重要。 ○あかいくつ、ベイサイドブルーやシーバスなどの交通手段を十分整備してほしい。 ○RVパークとメガソーラーを付設したフェリーターミナル ○脱炭素・SDGsをアピールでき、通勤通学観光が便利になり、交流人口が増え観光客も誘致できるため、山下ふ頭から横浜駅までLRTを通す。	市民意見募集委 員会第2回後		
○LRTや自走式ロープウェイなど山下ふ頭を含め横浜市発展のため、公共交通、交通の便が良くなり、脱炭素につながり、市全体の利便性や発展にもつながるので、横浜駅からみなとみらいを通り、山下ふ頭までを新交通でつなぐこと。 ○山下ふ頭は交通の便が悪いので、自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にすること。 ○船着き場を活かし、大規模災害拠点としても活用できるよう、メガソーラーやRVパーク等の施設・設備を含めたフェリーターミナル ○首都高速の出入り口、桜木町駅からのロープウェイを山下ふ頭、八景島、海の公園まで延長。	市民意見募集委 員会第3回後			
○交通利便性の向上策として、山下ふ頭を中心に、横浜駅から港の見える丘公園付近までの隣接域をロープウェイや海上交通、陸上交通などで結ぶ交通網サービスの整備。 ○横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。 ○スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動需要促進、自動運転モビリティの導入。	事業者提案 第1回			

■脱炭素（環境・エネルギー等）

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
脱炭素型の再開発	時代を越えて、生物多様性とか、生命圏というような視界を持ったものを、どうリンクさせるか。このあたりが世代論を越えたプロジェクトになっていくんじゃないか。	委員会 第2回	寺島 委員	■カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小化した施設の導入や、用途に応じた域内でのエネルギーのベストミックスの取組等により、日本初の脱炭素型の再開発プロジェクトを目指すべき。
	脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。	委員会 第2回	村木 委員	
	今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。	委員会 第2回	村木 委員	
	ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO2の排出量を抑えられるような開発を進める必要。	委員会 第2回	村木 委員	
	防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。	委員会 第3回	坂倉 委員	
	カーボンニュートラルに貢献するというのは、当然の常識。	委員会 第4回	内田 委員	
	○環境対策の充実 ○脱炭素社会	市民意見募集 第1回		
	○エネルギー施設	市民意見募集 第2回		
	○サステナブル（エネルギー循環、自然エネルギー、カーボンニュートラル、健康的な暮らし、自給自足）	意見交換会 第1回		
	○市の収益の向上 ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○カーボンニュートラルに取り組む ○海と緑が調和している ○学術・研究開発機能によるエネルギー問題等への貢献	意見交換会 第2回		
	○地球温暖化阻止するための施設（太陽光やバイオマス）	市民意見募集 委員会第1回後		
	○再開発では脱炭素・省エネが必須となる。必要事項として議論する方が良い。 ○日本のエネルギーネットワークの失地回復に繋がるようなものが求められる。	市民意見募集 委員会第2回後		
	○横浜内港に世界一の環境港湾都市を創るために、都心臨海部を冷やし、きれいに。 ○SDGs・水素エネルギー施設・その他施設、水素発電・浄化システム、エネルギーセンター ○「都市生活インフラの深化」×「職住遊機能の拡充」×「環境との共生」により、魅力的なインナーハーバーへと深化し、横浜から「YOKOHAMA」へ価値を創造・発信。 ○地球温暖化の悪影響が世界を覆いつつあるため、SDGs 対応、水素利用の促進。 ○世界人口の増加に伴う、将来的な水不足・食料不足への緩衝性を高める方策の導入。 ○次世代型エネルギー拠点を形成し、インナーハーバー全体のエネルギー創出・循環を強化・拡張。 ○海洋資源の有効活用。 ○SDGs 水素エネルギー供給センター構想、「水素ベース地域熱電供給システム」構築、大災害時は市中へ電力供給。 ○SDGs を基軸とした計画やカーボンニュートラルの取組み。 ○「2027園芸博」のレガシーを受け継ぐグリーンインフラ整備。（「砂浜再生」による親水空間形成、「海の森（アミ場）づくり」「湿地づくり」による生物多様性の実現とCO2吸収 地表の緑被率を高めることによるヒートアイランド抑制） ○グリーンインフラ（緑化）の導入やクリーンエネルギー（水素）の活用による環境未来都市の整備。	事業者提案 第1回		

<p>○太陽光、風力、海波の再生エネルギー発電設備管理スペースが配置され、山下埠頭のすべてに供給し管理する。</p> <p>○山下ふ頭エリア全体で電気・熱の供給を担うエネルギーセンターの計画</p> <p>○環境と人に優しく・文化のある街創り。～SDGsの考え方をベースに置く～自然エネルギーの活用と物を大切に作る街～</p> <p>○水素エネルギーセンター、液化水素タンク、液化水素運搬船、豪州褐炭から水素精製下水ガス化発電、メタネーション、海水淡水化</p> <p>○地球温暖化阻止のため太陽光パネルを設置して全て電源は再生可能エネルギーの利用のみで運営。</p> <p>○港湾物流はトラック輸送が主体であったが、アウターハーバーのふ頭の増設に対応してCO2排出量の少ない鉄道輸送の復権を考える時期に来ている。</p> <p>○「蚤の市」の常設スペース。捨てるからまだまだ使えるへ。不用品から必要品へ。</p> <p>○ごみ焼却施設を作り、そのエネルギーを活用する。</p> <p>○環境技術は日進月歩の分野であり、開発時期も大きく異なるため、各ふ頭や大規模敷地などの単位で自律・分散しつつ、全体としての効率化などを目指すべき。</p> <p>○エネルギーの効率化を図る設備や取組の充実、周辺エリアとのエネルギー連携などのテクノロジーを導入し、サステナブルな社会に向けて行動する。</p>	<p>事業者提案 第2回</p>	
--	----------------------	--

ポイント	関連する意見	意見者	要旨	
<p>脱炭素の取組・魅力の 프로모ーション</p>	<p>横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。</p>	<p>委員会 第1回</p>	<p>■再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取組を国内外に広くプロモーションする場所としても活用すべき。</p>	
	<p>今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。</p>	<p>委員会 第2回</p>		<p>河野委員 村木委員</p>
	<p>○世界から注目される</p> <p>○先進的な自然環境を世界にアピールできる公園・レクリエーション機能</p>	<p>意見交換会 第2回</p>		
	<p>○山下ふ頭全体を環境脱炭素化・再生可能エネルギー・廃棄物を含む物質の再生循環・情報技術等のハード・ソフトの先端的取組みのショーケースとする。</p>	<p>事業者提案 第2回</p>		
	<p>○脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。</p>	<p>市民意見募集 委員会第4回後</p>		

■市域全体と連動した賑わい創出

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
都心臨海部、横浜市全体への波及	<p>治安も悪かったイーストロンドンの成功は、山下ふ頭を考える上でも重要な動機になる。五輪開催を契機に、緑の増加、地域の環境浄化が図られ、隣接する高密度で貧困の象徴と言われた町も浄化され、インテリジェンスを持った若者が低廉な家賃という魅力で住み込み、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、創造的な地域に変貌を遂げ、今や欧州全体のソフトウェアのベースになった事例がある。このように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。</p>	委員会 第2回	涌井 委員	<p>■元町や中華街、山下公園通りなどのエリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような再開発とするべき。</p>
	<p>横浜は東京都心のコピーである必要もありませんし、サブ的な存在ではないと思っております。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う、そういう観点が重要。横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。</p>	委員会 第3回	今村 委員	
	<p>地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを抑えて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。</p>	委員会 第3回	アトキンソン 委員	
	<p>山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。</p>	委員会 第3回	坂倉 委員	
	<p>山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。</p>	委員会 第3回	藤木幸夫 委員	
	<p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する</p>	意見交換会 第2回		
	<p>○山下ふ頭再開発が横浜の中心の山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。</p>	市民意見募集 委員会第1回後		
	<p>○日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置から、港と結びつける開発が重要。 ○海の方ばかりではなく陸側とのつながりをもっと意識してほしい。 ○山手・元町・中華街という文化的バックグラウンドを活用してみなとみらいとの差別化を図ってほしい。</p>	市民意見募集 委員会第2回後		

<p>○山下ふ頭だけでなく周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。</p> <p>○これからの内港地区は、各エリアの特徴を活かしながら、業務・芸術・商業などのさまざまなチャレンジャーが世界へ羽ばたく“港まち横濱”として発展を続ける。</p> <p>○都心臨海部拠点（5地区）をつなぎ、豊かな回遊性・滞留性を創造する公共空間ネットワーク「横浜パークライン」の形成。</p> <p>○中央卸売市場は、SDGsを意識した未利用の産品を含めた県産市産の物販や飲食を中心とするファーマーズマーケット&フィッシャーマンズワープをイメージした地区に全面協力。</p> <p>○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出、「山内ふ頭」において横浜の持つ食文化を広く内外に発信し、周辺への賑わいを創出。</p> <p>○“海洋都市の実現”もキーワードに、横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。東側都心部は、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。西側都心部は、市の都市再生マスタープランを基本にまちづくりを推進。関内・外地区、山下公園周辺地区、山下ふ頭地区をそれぞれの特徴を生かし整備。</p>	<p>事業者提案 第1回</p>	
--	----------------------	--

ポイント	関連する意見	意見者	要旨
巨視的な視点の確保	日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。	委員会 第1回	<p>■経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響も考慮する必要がある。</p>
山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。	委員会 第1回	平尾 委員	
山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こす必要がある。	委員会 第1回	今村 委員	
○再開発にあたっては、広域的（東京湾全体、横浜市全体等）な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。	市民意見募集委員会 第1回後		
○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。	市民意見募集委員会 第3回後		

■海に囲まれた立地特性

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
立地特性の活用	今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。	委員会 第1回	石渡 委員	■観光産業等の活性化や、水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする方々からの映り方等、再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を十分に活かしていくべき。
	マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけに感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。	委員会 第1回	北山 委員	
	水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。	委員会 第2回	北山 委員	
	素晴らしい立地条件と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。	委員会 第3回	坂倉 委員	
	埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要。	委員会 第3回	坂倉 委員	
	立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実は必須。	委員会 第3回	藤木幸 夫委員	
	水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。	委員会 第4回	内田 委員	
	○海に面する特性を活かす ○海に面した横浜らしい場所を活かしたい ○海の玄関口として象徴的な役割を果たす	意見交換会 第2回		
	○特異な立地を生かし、横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人・物・情報の集まる拠点を形成すべきである。	事業者提案 第2回		

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
海を活かした人材育成	クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快楽を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。	委員会 第4回	藤木幸 太委員	■将来の海洋人材などの育成に向けて、若い世代への教育的な役割が果たせる開発も考えられる。

■歴史・文化

ポイント	関連する意見	意見者	要旨
横浜の歴史を踏まえた開発	横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがその時代その時代に合わせて作ってきた歴史を紡いでいく必要がある。	委員会第1回 石渡委員	■160余年に及ぶ横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。
	インナーハーバーと称される最後のエリアとして、ここが総仕上げになるような形で、点在してきた文化とか技術とか歴史をネットワーク化して、山下ふ頭ですべてがつながる形で完成されることが適当。	委員会第1回 石渡委員	
	横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史がありますし、独自の都市文化、地理特性が備わっております。こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべきだと思っております。	委員会第3回 今村委員	
	横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としてほしい。	委員会第3回 藤木幸夫委員	
	○文化や歴史 ○芸術 ○文化・芸術機能 ○サブカルチャー	市民意見募集第1回	
	○横浜の歴史を活かす ○文化を活かす ○横浜の歴史を伝える、感じる ○新しい文化が育つ ○異文化・多文化にふれる	市民意見募集第2回	
	○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ、歴史を再現する・既存施設を生かしたまちづくり）	意見交換会第1回	
	○海に面する特性を生かす ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○横浜らしさが感じられる ○横浜の競争力を高める ○国際都市としてのイメージがアップする ○歴史資産を残す ○文化・交流機能（開港・横浜発祥・埠頭の歴史都市の記憶の継承・市民と来街者の交流を生む・子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる・文化・芸術を楽しむ人を育てる）	意見交換会第2回	
	○横浜らしい個性ある持続可能な都市像と山下ふ頭のあり方を議論するため、横浜の都市づくりの歴史をたどり、先人の精神と経験に学ぶべき。 ○横浜の伝統を護る政策に絞ったEuropeの文化を活かしたまちづくり。	市民意見募集委員会第1回後	
	○横浜の過去のまちづくりの構想など、歴史に真摯に向き合う姿勢と責任感が大切。 ○文化的で落ち着いたまちづくりを目指してほしい。	市民意見募集委員会第2回後	
○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。	市民意見募集委員会第3回後		
○古き良き横浜の雰囲気が感じられる再開発を進めてほしい。 ○歴史や文化などの視点からの議論も必要。	市民意見募集委員会第4回後		
○開港から紡がれてきた思いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。 ○各地の日本文化を紹介し、また同時に海外の文化を紹介する事で、横浜独自の国際交流拠点となる。	事業者提案第2回		

ポイント	関連する意見	意見者	要旨
歴史文化の魅せ方	外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。	委員会第1回 内田委員	■インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱くサブカルチャー、食文化、国際交流の歴史等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。
	歴史・文化だけでは多様性がないもので、インフラ投資による都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、いろんなアピールをすることが重要である。	委員会第3回 アトキンソン委員	
	国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。	委員会第3回 藤木幸夫委員	
	○文化・芸術を発信する ○文化を体験できる ○劇場・ホール ○博物館 ○美術館 ○図書館	市民意見募集第2回	

<p>○歴史・文化を生かしたまちづくり（美術館・博物館、アート）</p> <p>○歴史のテーマパークによるエンターテインメント</p>	意見交換会 第1回
<p>○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる</p> <p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○港町の風景が見れる</p> <p>○文化を活用する・発信する ○シンボルがある ○歴史・文化を感じることができる</p> <p>○開発に緑を取り入れる ○文化・芸術に触れられる</p>	意見交換会 第2回
<p>○文化創造都市として世界へ各種情報発信、世界からの各種情報を取り込む『平和の大切さを世界に呼び掛ける横浜』の役割</p> <p>○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。</p> <p>○海外では日本＝アニメが当たり前なので、各種イベント等で国内のイメージ戦略が成功している横浜は、アニメまたはポケモン+ポートタウンであれば競争性もなく、成功が望める。</p> <p>○外国籍の方々から「山下ふ頭周辺に日本の文化や伝統文化を体験できる場所がない」という意見があるので、日本の伝統芸能を見る・体験できる複合施設を作ることを提案。</p> <p>○日本の伝統的着物文化が人々から遠ざかっている・インバウンドの来日目的が観光だけでなく、日本らしさを求めていることから、日本文化の展示、体験型のミュージアムのような【日本文化の殿堂】を建設することで日本の伝統文化を次世代に伝承し、継承する。</p> <p>○文化施設と教育機関が併設された海と緑に囲まれた美術館ができれば、世界で活躍する若者を輩出し、世界から訪ねられるヨコハマになる。</p> <p>○映画館（車から見れるものも含む）、再度ガンダムを誘致、藤子不二雄ランド、もしくはJAPAN漫画ランド建設。</p>	市民意見募集 委員会第3回後
<p>○横浜市民がテレビやネットを見る時間を読書の時間にあてることを推進するような場所作りのために世界に誇れる素敵なハーバー図書館</p>	市民意見募集 委員会第4回後
<p>○メディア芸術（デジタルアート）、 グローバル拠点施設</p>	事業者提案 第1回
<p>○アート・デザイン・スポーツ・音楽・ダンスそして食はエンターテインメントになる!ライフスタイルがエンターテインメントになる。</p> <p>○日本国内や海外を旅行する際に、各地方の魅力や特産品・老舗を紹介。</p> <p>○居ながらにしてクルーズ文化体験</p>	事業者提案 第2回

■緑・水辺

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
緑で繋がり市民が憩える空間づくり	地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。	委員会第1回	幸田委員	■みなとみらい21地区の水際線から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線の繋がりを生かしながら、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性の向上を図るとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保していくべき。
	港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。	委員会第4回	幸田委員	
	臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい21地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース（BAYWALK YOKOHAMA）や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。	委員会第3回	藤木幸夫委員	
	○海と緑の調和	市民意見募集第1回		
	○周辺と緑でつながる	市民意見募集第2回		
	○庭・岡・公園のある市民のための再開発 ○散歩・サイクリングできる市民のための再開発 ○サイクリングコース・マラソンコース・水辺ウォーキングのある公園 ○広場、デッキなど憩いの場のある公園	意見交換会第1回		
	○市民が楽しめる・利用できる ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○開放的な憩いの場づくり ○豊かな緑がある ○防災機能を備える ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○サステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい ○カーボンニュートラルに取り組む ○周辺の景観と調和している ○海と緑が調和している ○開発に緑を取り入れる ○公園・レクリエーション機能（市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい・子育てしやすい環境づくりに寄与・海と緑を一体的に体感できる場所にしたい・山下公園との連続性が大事にしたい）	意見交換会第2回		
	○公共財の管理に市民が参画していく現在版の入会地、里山のようなスペース	市民意見募集委員会第1回後		
	○山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。 ○自然が豊かである、自然を活かす、自然を楽しめる、誰でも憩える、ゆっくりくつろげる、公園、広場、遊歩道 ○厚生労働省の児童館機能強化方針を踏まえた、遊具のある広い公園と、そこに併設する、小さな子供から中高生まで幅広く活動し、また、一人でもくつろげる児童館 ○28haの市民がつくる森 ○山下埠頭を広大な森林公園（山）にする。山の下に広大な駐車場に。 ○園の中にキャンプ場（ホテルチックなバンガロー）の設置。手ぶらキャンプ	市民意見募集委員会第2回後		
	○中区内の緑地の連続性を延長するための直径450mの公園（ダダッピロバ） ○海水を利用した公衆浴場・水着で入るプール、災害時の一時避難場所となる休憩ルーム。バーベキュー、テント張るスペース。 ○みなとみらいから八景島までのサイクリングロード ○横浜が園芸博覧会のキャッチフレーズである「ネイチャーベイスドソリューションズ」の象徴となるようにまとまった樹林地	市民意見募集委員会第3回後		
○駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い ○氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園 ○横浜港の情景を大切にすべく、横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい	市民意見募集委員会第4回後			
○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。 ○東側都心部は、京浜臨海部再整備マスタープランに沿った開発を進める一方、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。 ○緑、水際線	事業者提案第1回			

ポイント	関連する委員意見	回数	委員	要旨
水辺空間の有効利用	マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけを感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。	委員会第1回	北山委員	■海外の事例も参考にしながら、水面の賑わい創出や水際における非日常空間の形成等、ウォーターフロントの都市として相応しい取組を進めるべき。
	水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。やはり水際という非日常空間を生かすべき。	委員会第4回	内田委員	
	○海・みなと ○水辺・親水機能	市民意見募集第1回		
	○浜辺 ○釣り施設 ○海・港を活かす、身近に感じる ○港の機能がある ○海や港の景色を眺められる ○海で楽しめる ○船が停泊する	市民意見募集第2回		
	○海水浴場のある公園 ○マリンスポーツ	意見交換会第1回		
	○横浜ブランドを創る・高める ○海に面する特性を生かす○港に親しみが持てる ○港町の風景が見れる ○先進的なまちである ○新しい文化が育つ ○横浜らしさを感じられる ○国際都市としてのイメージがアップする ○横浜らしい景観が見れる	意見交換会第2回		
	○人工の砂浜（海水浴場）とプール（冬季温水プール）	市民意見募集委員会第2回後		
○サップ、カヌーなどやれる場所 ○人工の砂浜	市民意見募集委員会第3回後			

■景観形成

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
景観を考慮した開発	船で帰ってくる時の景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。	委員会 第1回	河野 委員	■横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえつつ、海陸両面の視点場からの山下ふ頭の見え方や、周辺地区との景観のバランスを意識した開発とするべき。
	山下ふ頭は、ベイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。	委員会 第1回	内田 委員	
	今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。	委員会 第1回	石渡 委員	
	横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを抑えることも必要ではないか。	委員会 第3回	北山 委員	
	○景観形成	市民意見募集 第1回		
	○海や港の景色を眺められる ○シンボルになる ○特色のある・周辺と調和のとれた・自然と調和のとれた景観づくり	市民意見募集 第2回		
	○横浜ブランドを創る・高める ○港町の風景が見れる ○シンボルがある ○周囲の景観と調和している ○海と緑が調和している ○横浜らしい景観が見れる ○誇れる街並みを創る	意見交換会 第2回		
	○みなとみらいとは違ったランドスケープに。 ○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店 ○銭湯（横浜港が一望出来る巨大露天風呂） ○横浜港が一望出来る夏季ビアガーデン、冬季屋外こたつ式おでん居酒屋 ○開港以来の歴史と連なる景観の一部として、ホテルニューグランド、氷川丸、山下公園と調和することは絶対条件。	市民意見募集 委員会第2回後		
	○港の見える丘公園からの景観を大事にするため、「山手地区都市景観形成ガイドライン」は委員会では必須事項である。 ○賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○過去の都市計画での失敗を踏まえ、景観を重視した観点を山下ふ頭の開発の計画に加えてほしい。 ○市の経済効果の出し方は過大であるため、賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○赤レンガから山下公園にかけての美しい海岸沿いは世界に誇れる景観であるので、山下ふ頭を経済合理主義で台無しにすることはしてほしくない。	市民意見募集 委員会第3回後		
	○内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。 ○良好な環境基盤（緑・景観・街並み）づくり-地域とつながる景観・街並み」づくり。	事業者提案 第2回		

■デジタル活用

ポイント	関連する意見	意見者		要旨
デジタル時代への対応	デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。	委員会 第1回	内田 委員	<p>■横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を踏まえるとともに、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することも考えられる。</p>
	コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、デジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。	委員会 第2回	涌井 委員	
	都市開発の一方で市域の7パーセントにあたる農業地域についても、人口減少で農業の担い手が急減する中で、横浜市の食料自給率のアップ、例えばDXを活用した収穫量の増大、営農型太陽光発電のソーラーシェアリングによる収支改善などの対策検討を、市がしっかりとしたリーダーシップを持って進めていただきたい。	委員会 第3回	今村 委員	
	○DX（デジタルトランスフォーメーション）	市民意見募集 第1回		
	○先進技術を活用する	市民意見募集 第2回		
	○DX等を取り入れる	意見交換会 第2回		
<p>○スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。</p> <p>○最新のデジタル技術（入山証アプリ等）を駆使した社会実証の実施。</p> <p>○接客・配送ロボット導入や最先端の広告技術の導入。</p>	事業者提案 第1回			